ActiveVisor™

セットアップガイド

第 1 版 2022 年 8 月

Actiphy

目次

1. はじめに 3
システム要件 3
2. ActiveVisor の初期設定とインストール 4
2-1. ActiveVisor のダウンロード 4
2-2. ActiveVisor のインストール 4
2-3. ActiveVisor の初期設定 6
2-4. 検出されなかったコンピューターの追加 8
3. クライアントへの ActiveImage Protector のプッシュインストール 10
3-1. 事前の準備 10
3-2. プッシュインストールの実行 11
4. バックアップタスクのテンプレート作成とデプロイ(展開) 16
4-1. スケジュール テンプレートの作成 16
4-2. バックアップ テンプレートの作成 19
4-3. 管理対象コンピューターにテンプレートのデプロイ 25
5. ActiveVisor による監視 30
5-1. ［ダッシュボード］タブ 30
5-2. ［クライアント］タブ 30
5-3. ［保存先］タブ 34
5-4. モニタリング 35
6. ActiveVisor による管理 38
6-1. エージェントレス バックアップ 38
6-2. ActiveVisor ファイル復元 46
6-3. ActiveVisor の Web コンソール 50
6-4. ActiveVisor のリモート管理コンソール接続 52
6-5. ActiveVisor から RescueBoot のリモート操作 54
7. ＡＰＰＥＮＤＩＸ 56
サポート情報の取得方法 56
ActiveVisor 参考情報 58

1. はじめに

ActiveVisor は、ActiveImage Protector が導入されているコンピューターのバックアップ状況の監視やプッシュインストール、バックアップタスクの配信等を統一した方法で集中管理できる統合管理コンソールです。このセットアップガイドでは、「ActiveVisor」の導入から基本的な設定方法などを説明しています。なお、詳細な設定方法や制限事項などについては、オンライン ヘルプ（https://webhelp.actiphy.com/AIP/2022/ja_JP/）を参照してください。

システム要件

ActiveVisor のシステム要件は下記のとおりです。インストール先のコンピューターが、以下のシステム要件を満たしていることをご確認ください。また、最新のシステム要件は、Web サイトのシステム要件ページ（https://www.actiphy.com/ja-jp/support/sysreq-activeVisor/）よりご確認ください。

CPU	Pentium 4 または同等以上の CPU
メモリ（RAM）	2048MB 以上。4096MB 以上を推奨
ハードディスク	500MB 以上の空き容量が必要
ディスプレイ解像度	1280x1024 以上を推奨
サポート対象 OS	Windows 10（x64）、Windows Server 2012R2 以降

◆ 管理対象のエージェントバージョン：

・ActiveImage Protector 2022 バージョン 6.0.0.7292 以降

・ActiveImage Protector 2018 Update バージョン 5.1.11.6454 以降

◆ Web ブラウザー：

以下のブラウザーからの Web アクセスをサポート

・Google Chrome バージョン 59 以上

・Microsoft Edge バージョン 42 以上

・Apple Safari バージョン 12 以上

◆ コンピューターのセキュリティー設定

〇ActiveVisor からコンピューターの管理/情報取得を行うために必要な設定

・ファイアウォール設定［Windows Management Interface（WMI）］が許可されている。

・グループポリシーのファイアウォール設定［ネットワーク］→［ネットワーク接続］→［Windows ファイアウォール］ で、［着信リモート管理の例外を許可する］が有効になっている。

〇ActiveImage Protector のプッシュインストール/アンインストール/アップデートを行うために必要な設定

・ファイアウォール設定 ［ファイルとプリンターの共有］が許可されている。

・グループポリシーでファイアウォール設定［ネットワーク］→［ネットワーク接続］→［Windows ファイアウォール］で［着信ファイルとプリンターの共有の例外を許可］が有効になっている。

2. ActiveVisor の初期設定とインストール

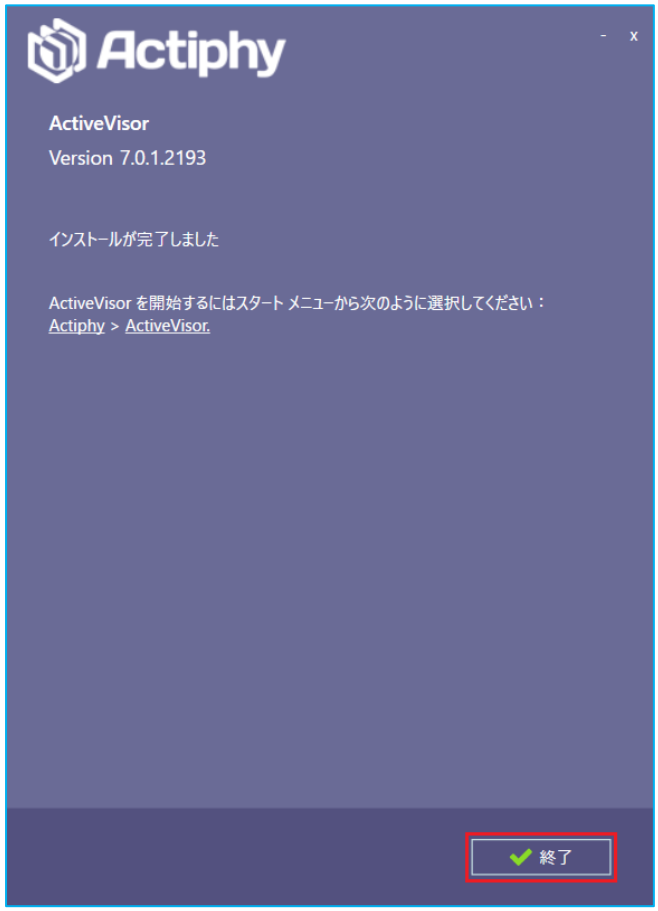
2-1. ActiveVisor のダウンロード

最新版の ActiveVisor は、以下のアクティファイのダウンロードサイトよりダウンロードします。
※以下の ActiveVisor のバージョンは、2022 年 8 月現在の最新版となります。ダウンロードサイトに公開されている最新版をご使用ください。
https://www.actiphy.com/ja-jp/download/update/

2-2. ActiveVisor のインストール

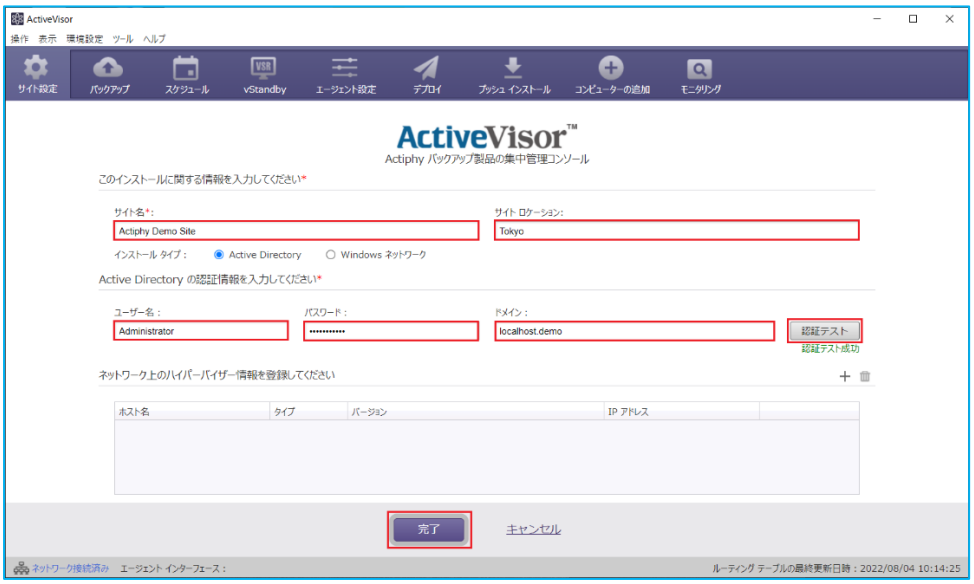
1. ActiveVisor のインストーラー（Setup.exe）を実行します。インストーラーが起動したら［インストール］をクリックするとインストールが開始されます。

2. インストールが完了したら［終了］をクリックします。
   システムの再起動は不要です。



2-3. ActiveVisor の初期設定

1. Windows スタートメニューから［Actiphy］ → ［ActiveVisor］をクリックして ActiveVisor を起動します。インストール後、初回起動時は以下の基本情報の設定を行います。ここでの設定例として、「インストールタイプ:」は、［Active Directory］を選択します。設定完了後に、［完了］をクリックすると「Active Directory」に登録されているコンピューターの検出が開始されます。



・サイト名：

この ActiveVisor が管理するサイトの名前を設定します。

・サイト ロケーション：

この ActiveVisor が存在する場所に関する説明を設定します。

・インストール タイプ：

管理するコンピューターの情報取得方法を設定します。

- Active Directory：

  ドメインの Administrator、または Domain Admin グループのユーザーを設定します。ドメイン名はフルパスで指定します。Active Directory に登録されていて、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされているコンピューターは、自動的に「ActiveVisor の管理対象」に追加されます。

- Windows ネットワーク：

  Administrator を管理用認証情報として設定します。同一ネットワーク上の管理対象コンピューターを手動で追加登録します。

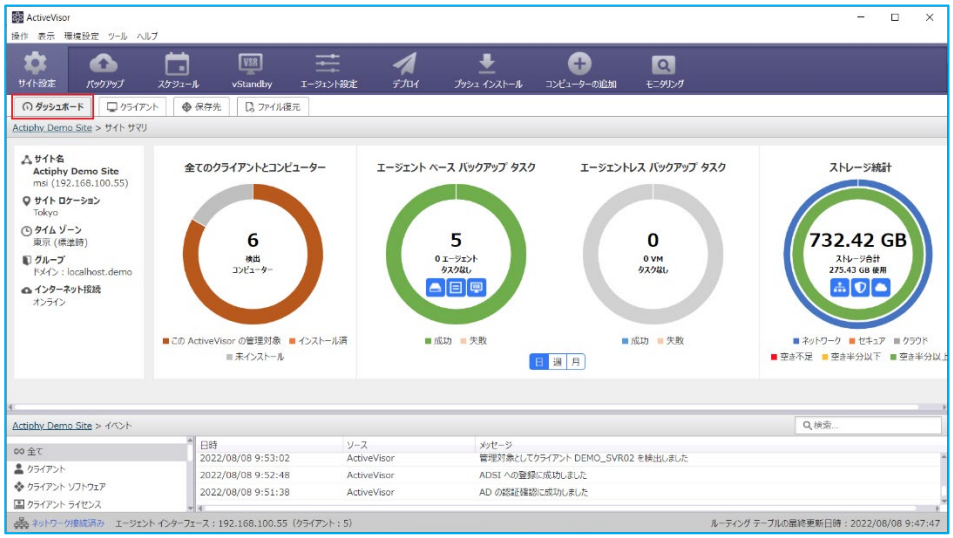
2. ［ダッシュボード］タブには、検出されたコンピューターの数などが表示されます。

・全てのクライアントとコンピューター
ドメインに登録されている検出されたコンピューターの数

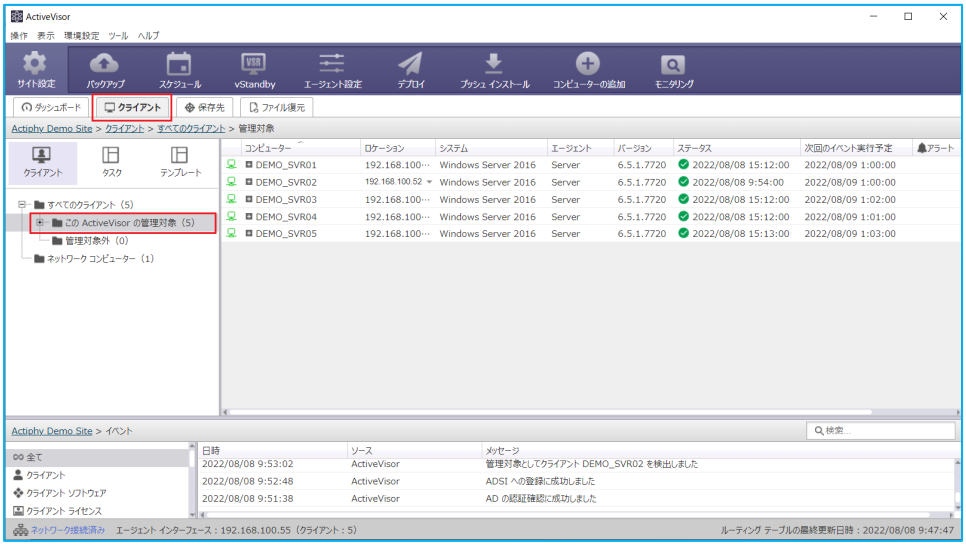
・エージェントベース バックアップ タスク
ActiveImage Protector のエージェントがインストールされているコンピューターの数

・エージェントレス バックアップ タスク
バックアップ管理サーバー「HyperAgent」がインストールされているコンピューターの数

・ストレージ統計
管理対象コンピューターが使用しているバックアップ保存先のストレージの容量



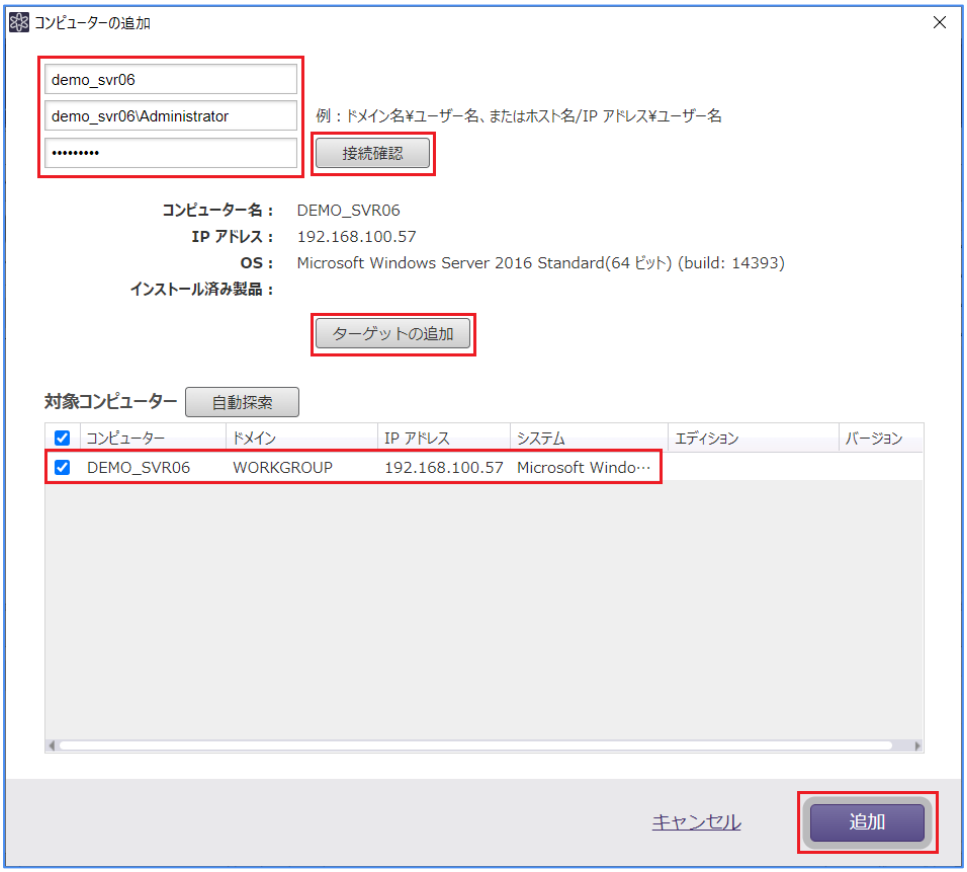
3. ［クライアント］タブには、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされている管理対象コンピューターが［この ActiveVisor の管理対象］に追加されます。ActiveImage Protector のエージェントがインストールされていないコンピューターは、［ネットワークコンピュータ］に追加されます。



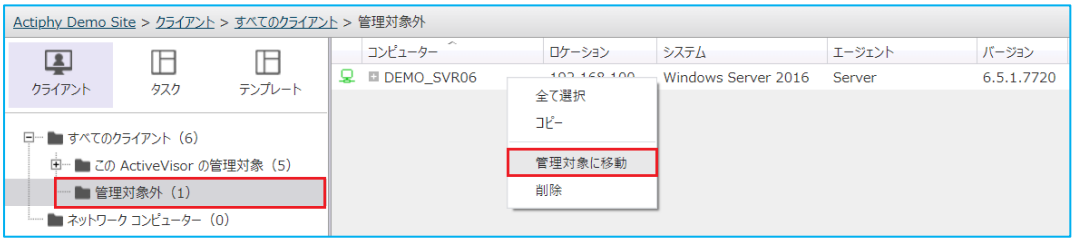
2-4. 検出されなかったコンピューターの追加

1. 検出されなかったコンピューターや「WORKGROUP」のコンピューターは個別に追加を行います。トップメニューの［コンピューターの追加］をクリックします。

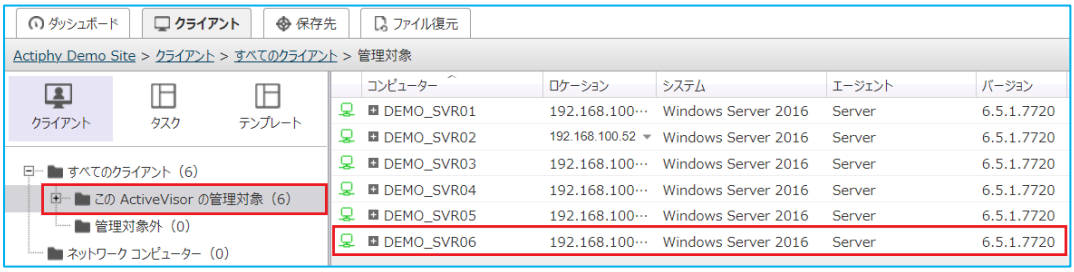
2. ここでの設定例として、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされている、「WORKGROUP」のコンピューター「demo_svr06」を管理対象に追加します。［ホスト名、または IP アドレス］に、コンピューター名「demo_svr06」、［管理者ユーザー名］に「demo_svr06¥Administrator」、［パスワード：］に設定されているパスワードを入力してから、［接続確認］をクリックすると接続が確立されます。次に、［ターゲットの追加］をクリックすると、下側の［対象コンピューター］のリストに追加されますので、追加したいコンピューターのチェックボックスにチェックして［追加］をクリックします。



3. ここで追加したコンピューターは「管理対象外」に追加されますので、コンピューター名を右クリックして、コンテキストメニューから［管理対象に移動］をクリックすると「管理対象」に追加されます。ActiveImage Protector のエージェントがインストールされていないコンピューターは、「ネットワーク コンピューター」に追加されます。



4. 「WORKGROUP」のコンピューター「demo_svr06」が「管理対象」に追加されています。



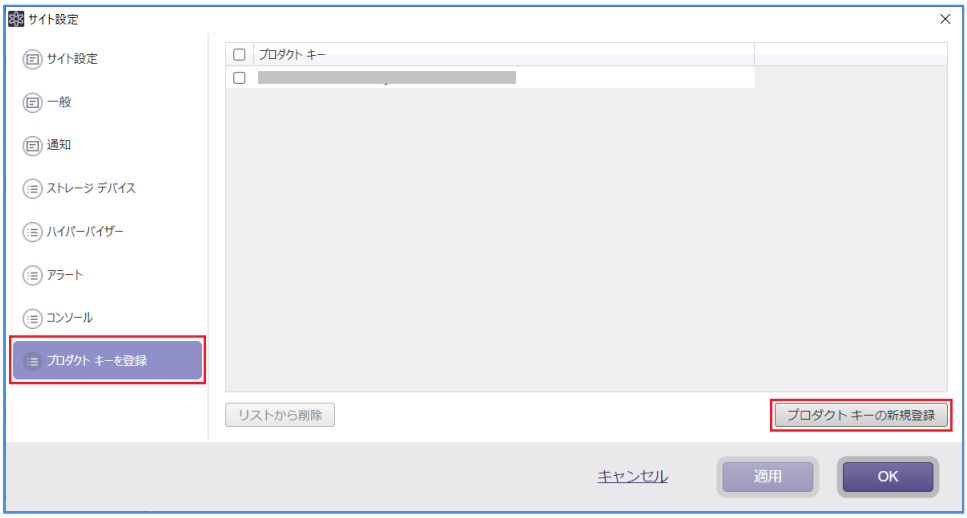
3. クライアントへの ActiveImage Protector のプッシュインストール

ActiveVisor は、一括で対象のコンピューターに ActiveImage Protector のプッシュインストール/アップグレード、およびアンインストールを行うことができます。ここでは、ActiveVisor から対象のコンピューターに、ActiveImage Protector のプッシュインストール手順について説明します。

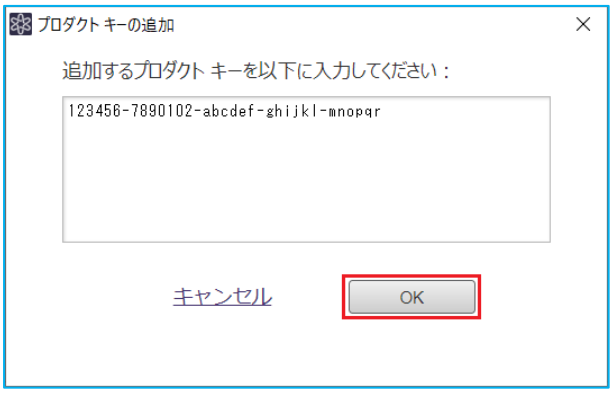
※ActiveVisor からプッシュインストールした ActiveImage Protector をローカルコンピューターでアンインストールする場合は、アンインストーラーをサイレントモードで実行します。例：コマンドプロンプト上で “C:¥Program Files¥Actiphy¥ActiveImage Protector¥uninstaller.exe” /qn を実行します。

3-1. 事前の準備

1. 最初に、ActiveVisor がインストールされているコンピューターからアクセスできる場所に、ActiveImage Protector のインストーラー（Setup.exe）を適当なフォルダー（ここでは D:¥work）にコピーします。
2. 次に、ActiveImage Protector のプロダクトキーを ActiveVisor に登録します（プッシュインストールの実行時に、自動的に入力されアクティベーションが行われます）。登録は、トップメニューの［サイト設定］－［プロダクトキーを登録］タブを選択します。この時点で、ActiveImage Protector がインストール済みのコンピューターが追加されていれば、そのライセンス情報が表示されます。新たなプロダクトキーを登録するには、右下にある［プロダクトキーの新規登録］をクリックします。

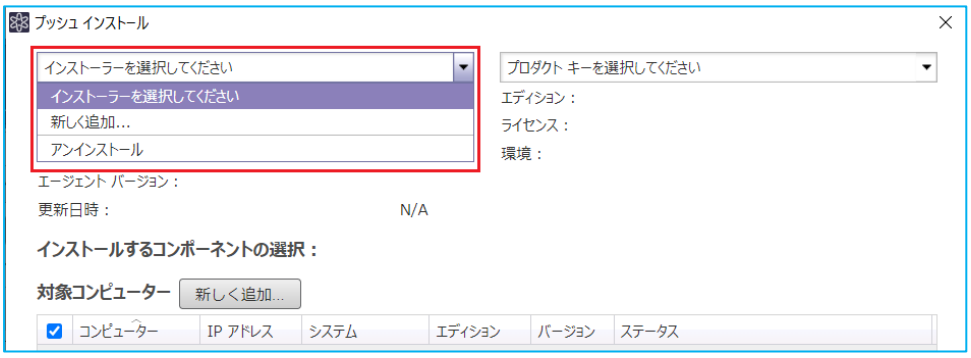


3. プロダクトキーを追加するダイアログボックスが表示されますので、プロダクトキーを入力して［OK］をクリックします。ここでの設定例として、「Server」のプロダクトキーを登録します。

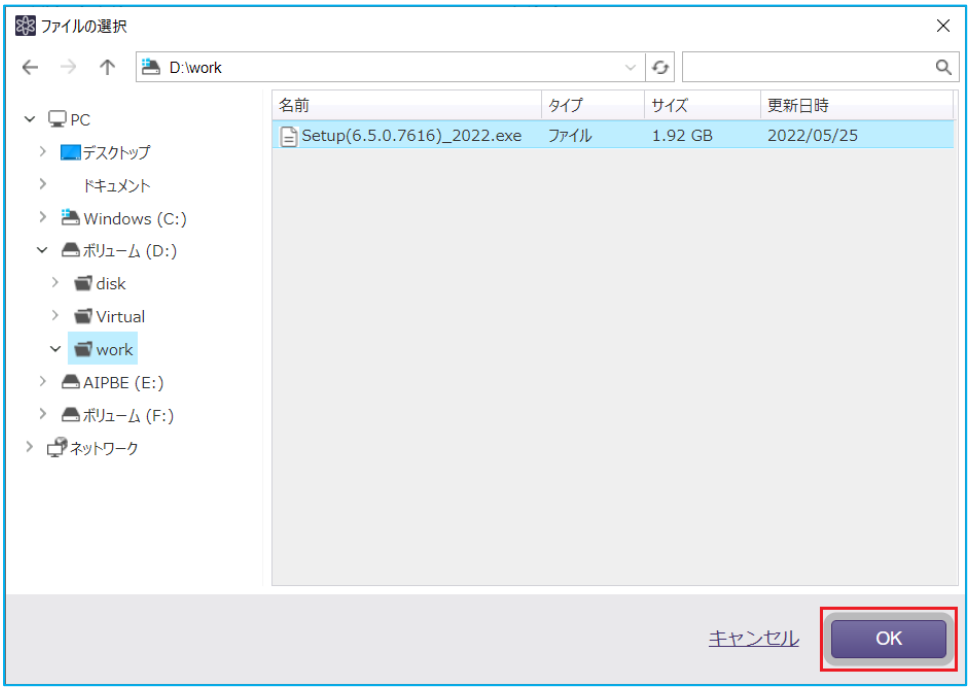


3-2. プッシュインストールの実行

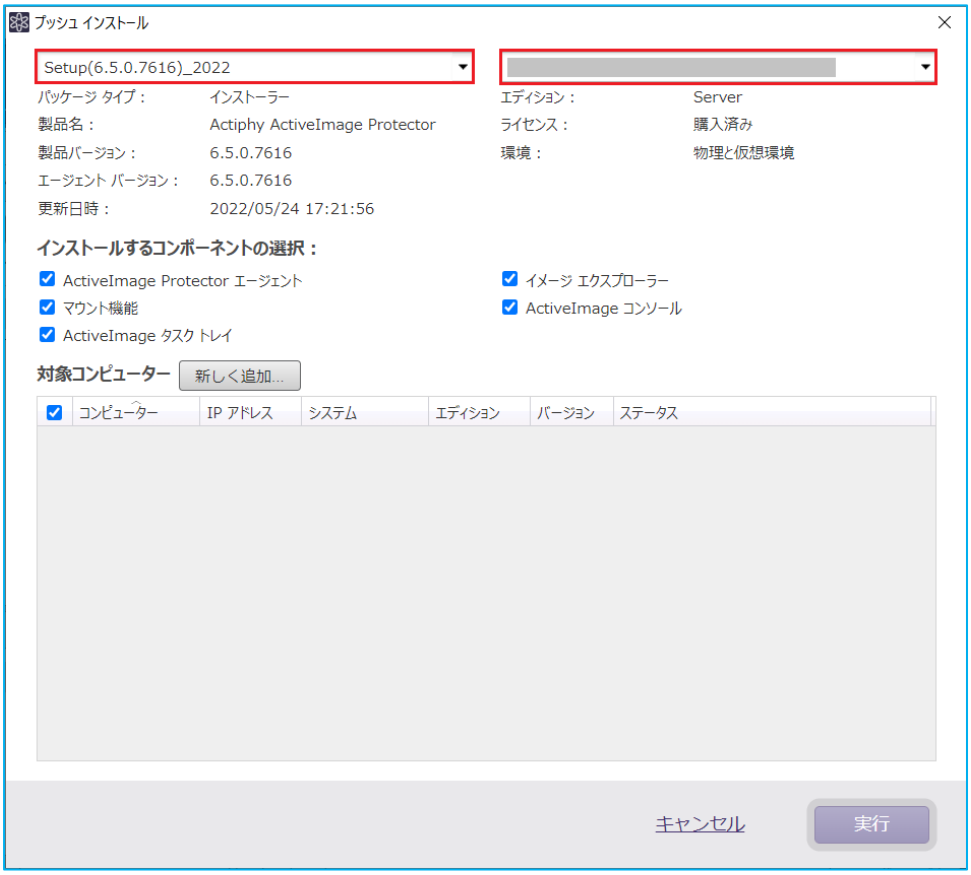
1. トップメニューの［プッシュインストール］を選択します。インストールするパッケージの選択になりますので、［インストーラーを選択してください］のテキストボックスの右端の［▼］をクリックし、［新しく追加］を選択します。



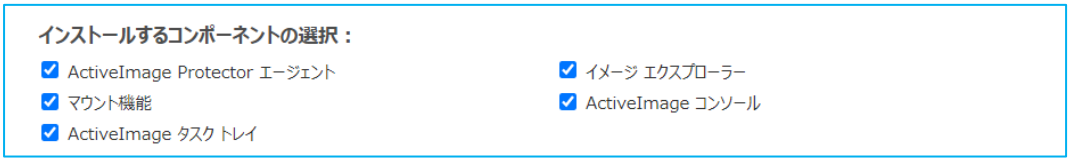
2. 前項の 3-1.で準備した ActiveImage Protector のインストーラーを選択して、［OK］をクリックします。



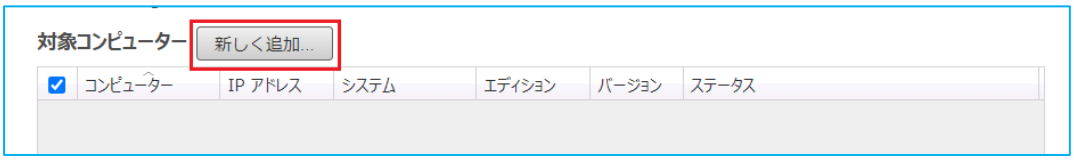
3. プッシュインストールの設定を行います。［インストーラーを選択してください］に、プルダウンメニューから登録したインストーラー「Setup.exe」と［プロダクトキーを選択してください］には、前項の 3-1.で登録した「Server」のプロダクトキーを選択します。



4. ［インストールするコンポーネントの選択：］では、プッシュインストールするコンポーネントを選択します。デフォルトでは、ActiveImage Protector エージェントのみです。この状態でプッシュインストールされたコンピューターでは、ActiveImage Protector のコンソールなどを起動させることができません。ここでの設定例として、「マウント機能」、「ActiveImage タスクトレイ」、「イメージエクスプローラー」、「ActiveImage コンソール」の全てのコンポーネントを選択します。

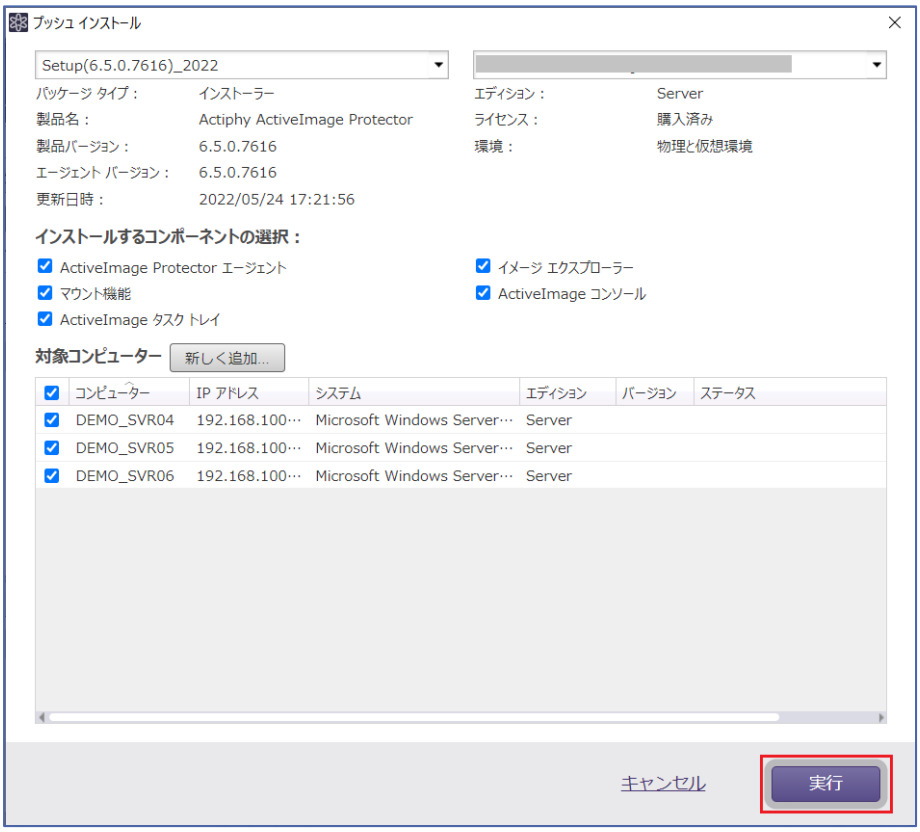


5. 次に、プッシュインストール先のコンピューターを設定します。「対象コンピューター」の［新しく追加］をクリックします。

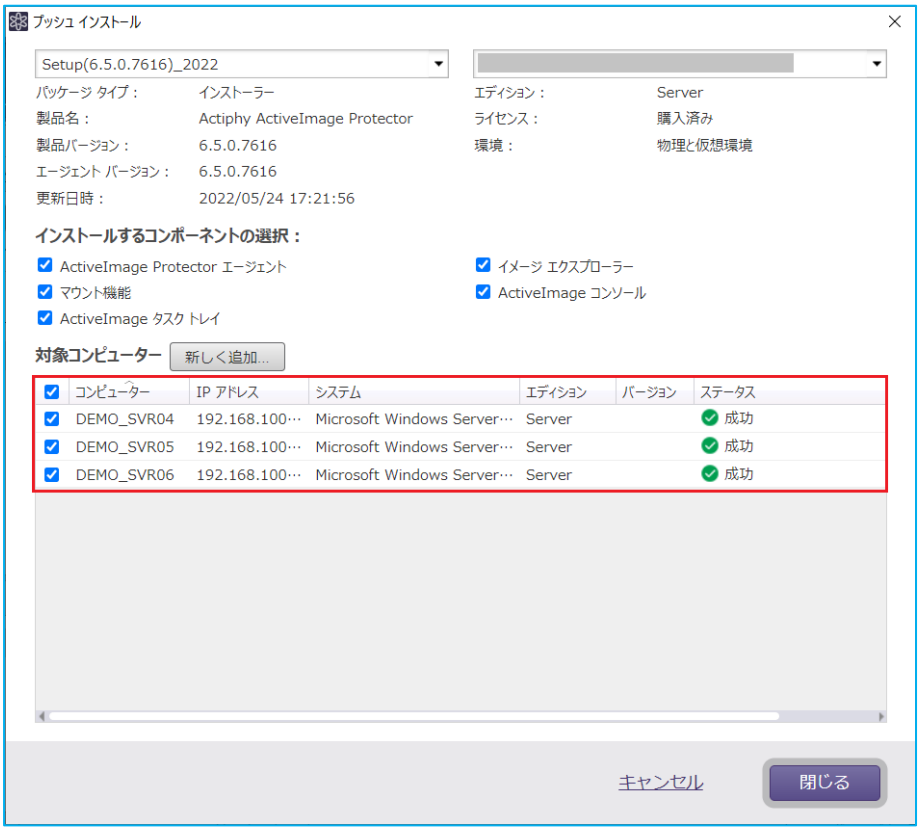


6. 管理登録されているコンピューターが表示されます。ActiveImage Protector のエージェントがすでにインストールされているコンピューターはアイコンがグリーン、インストールされていないコンピューターは「ネットワーク コンピューター」に登録されていてアイコンがグレーになっています。ここでは、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされていないコンピューターを選択し、［追加］をクリックします。複数のコンピューター選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。

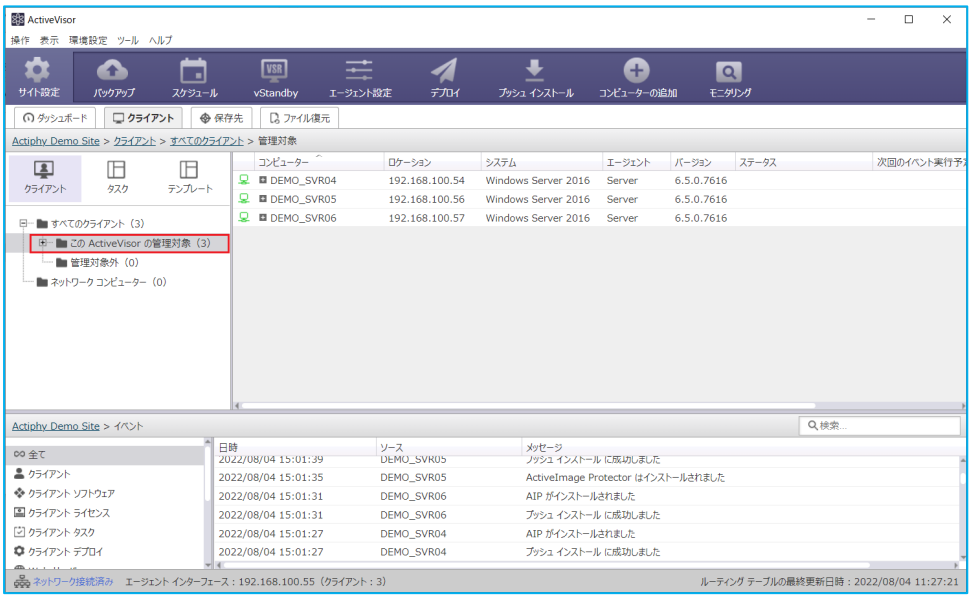
7. 「対象コンピューター」に、プッシュインストール先のコンピューターが登録されます。［実行］をクリックすると、プッシュインストールが開始されます。



8. プッシュインストールが完了すると、以下のようになります。［閉じる］をクリックして終了させます。



9. ［クライアント］タブには、ActiveImage Protector のエージェントのプッシュインストールが完了したコンピューターは［この ActiveVisor の管理対象］に追加され、アイコンがグリーンになります。また、エージェントの種類やバージョンが表示されます。



4. バックアップタスクのテンプレート作成とデプロイ(展開)

ここでは、バックアップタスクのテンプレート（バックアップやスケジュール設定のひな形）の作成とデプロイ(展開)手順を説明します。

・スケジュール テンプレートの作成

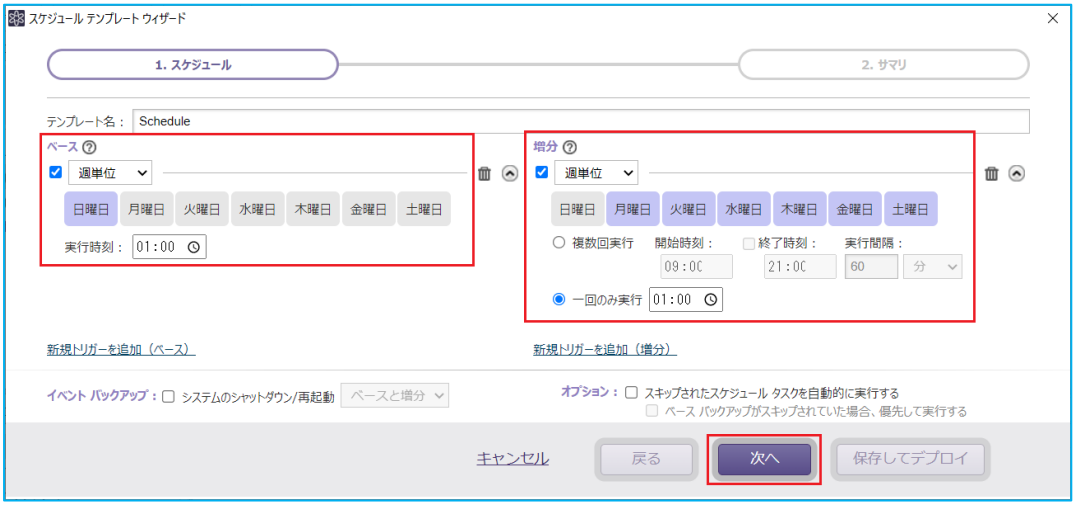
・バックアップ テンプレートの作成

・スケジュールとバックアップ テンプレートのデプロイ

4-1. スケジュール テンプレートの作成

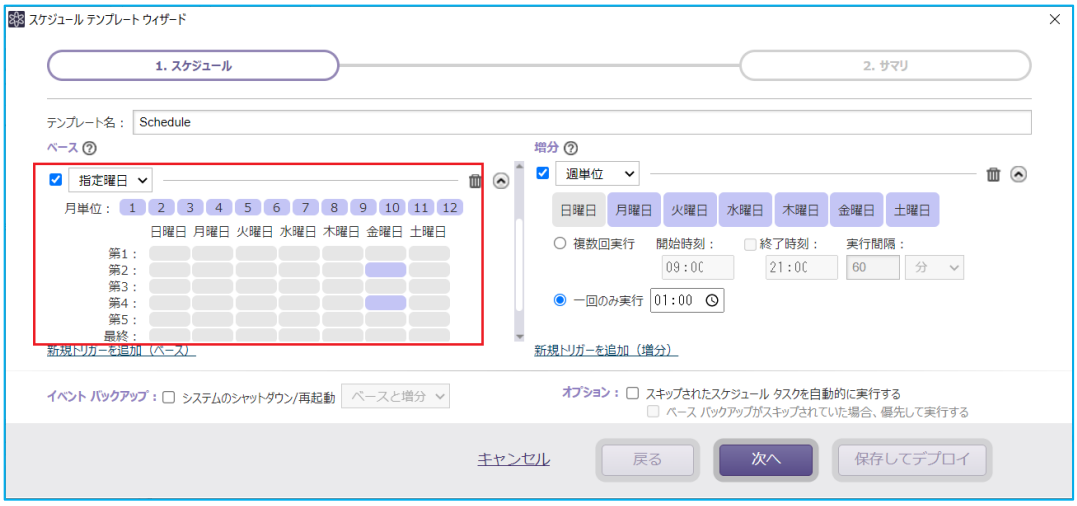
1. バックアップのスケジュール テンプレートを作成します。トップメニューの［スケジュール］を選択して、スケジュールのテンプレート作成ウィザードを起動させます。

2. ActiveImage Protector では、「月単位」、「週単位」、「指定曜日」、「指定日時」など柔軟にバックアップのスケジュールを作成することができます。ここでの設定例として、「週単位」を選択して日曜日の午前 1 時にベースバックアップ（フルバックアップ）、月曜日から土曜日の午前 1 時に増分バックアップを実行するスケジュール設定を行います。スケジュールの設定が完了したら、適切なテンプレート名を入力し、［次へ］をクリックします。



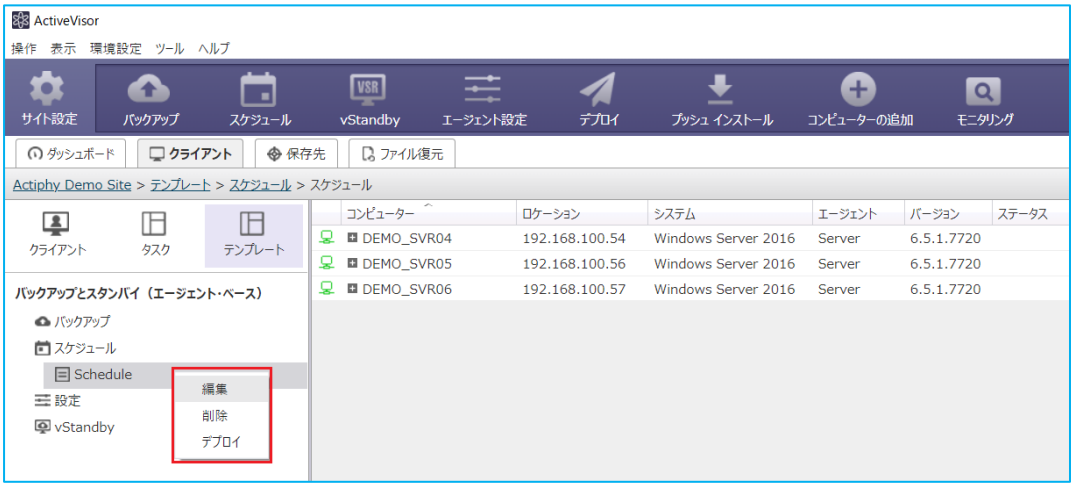
3. ［新規トリガーを追加］をクリックすると、スケジュール設定を追加することができます。

例えば、週単位のスケジュール設定に加え、「指定曜日」を選択して 1 月から 12 月まで、「第 2 金曜日」あるいは「第 4 金曜日」といった指定が可能です。



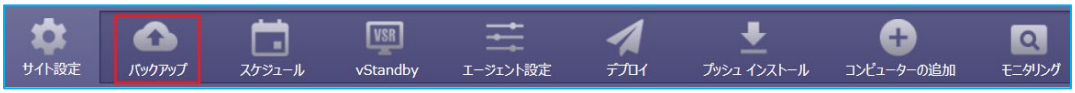
4. 設定したスケジュールを確認し、［保存］をクリックします。

5. 作成したスケジュールのテンプレート名を右クリックすると、テンプレートの再編集や削除、デプロイが行えます。

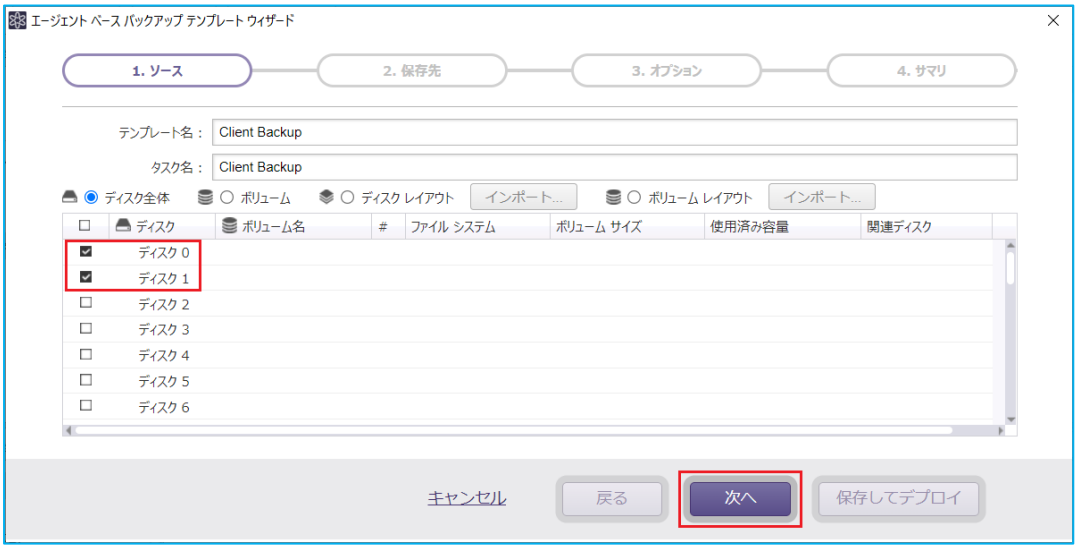


4-2. バックアップ テンプレートの作成

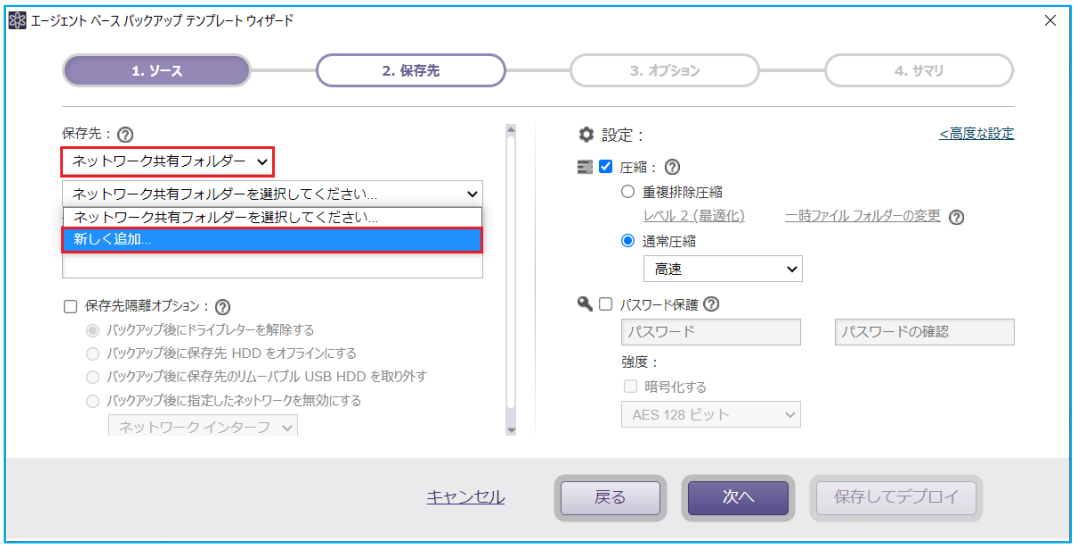
1. バックアップ対象のディスクとバックアップ保存先のテンプレートを作成します。トップメニューの［バックアップ］を選択して、バックアップのテンプレート作成ウィザードを起動させます。



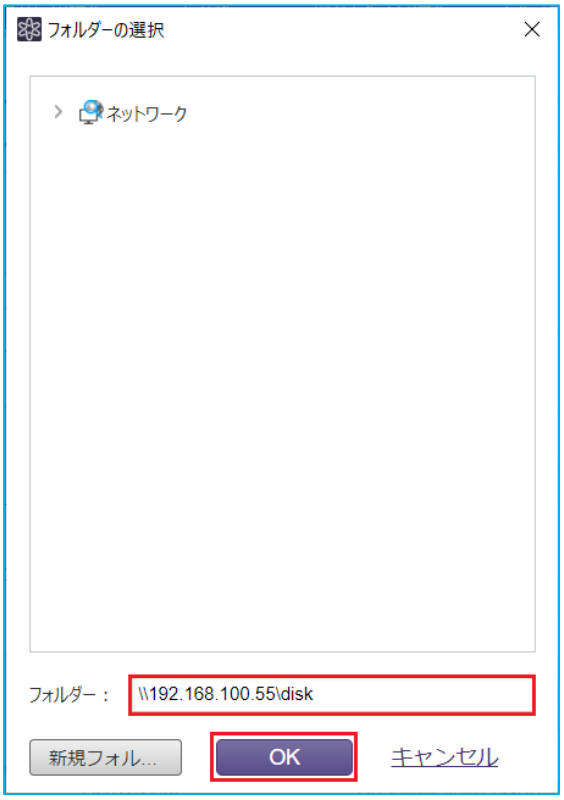
2. ActiveVisor では、デフォルトで 31 台のディスクをバックアップ対象として設定可能です。ここでの設定例として、「ディスク 0」と「ディスク 1」を選択して、［次へ］をクリックします。指定した対象ディスクのうち、デプロイ時に対象のコンピューターに存在しているディスクがバックアップ対象として設定されます。例えば、バックアップ対象のコンピューターに「ディスク 1」が存在しない場合は、「ディスク 0」のみがバックアップ対象として設定されます。



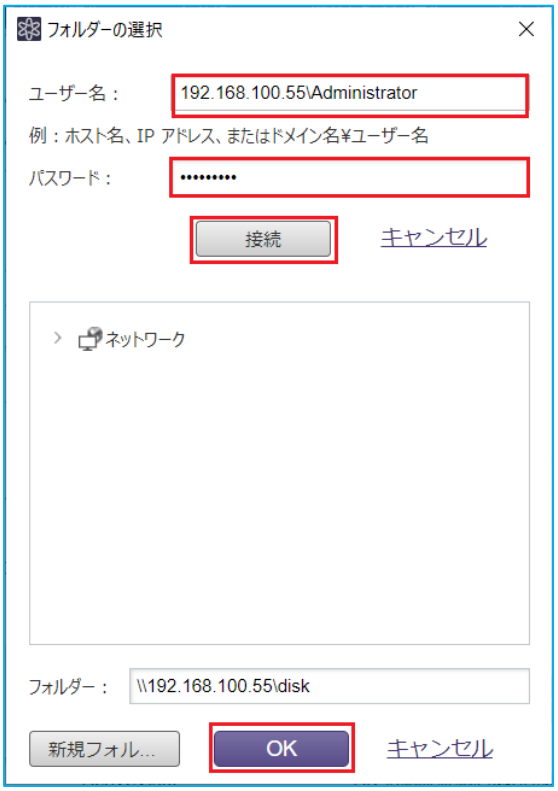
3. 保存先などの設定を行います。ここでの設定例として、［保存先：］は、［ローカルフォルダー］の右の［▼］を押して、［ネットワーク共有フォルダー］を選択します。この時点で、ActiveImage Protector がインストールされたコンピューターが「管理対象」として追加されていれば、そのバックアップ保存先の情報が表示されます。バックアップ保存先を追加する場合は、その下の［ネットワーク共有フォルダーを選択してください］の［▼］から、［新しく追加］を選択します。



4. フォルダーの選択となります。ここでの設定例として、［フォルダー：］にネットワーク共有フォルダー「¥¥192.168.100.55¥disk」を入力して、［OK］をクリックします。



5. 共有フォルダーへの認証情報を入入力して、［接続］をクリックします。認証が完了したら［OK］をクリックします。



6. 次に、［保存先隔離オプション：］、［設定：］、［高度な設定：］は、必要に応じて設定します。ここでの設定例では、デフォルト設定のまま、［次へ］をクリックします。［圧縮：］、［パスワード保護：］の設定は、以下を参考に使用環境に応じて設定します。

・圧縮レベルの設定

標準設定の通常圧縮と重複排除圧縮の 2 種類の圧縮方式をサポートします。圧縮率は、データの種類により異なりますが、通常圧縮で 70%、重複排除圧縮では 50%程度を目安としてください。画面の右の［オプション：］から指定します。重複排除圧縮を選択すると、その下の［レベル 2（推奨）］と重複排除処理の一時作業領域の［一時ファイルフォルダーを変更］の設定が可能になります。重複排除圧縮は、CPU やメモリの使用率が高くなりますので、負荷が高いコンピューター環境では、処理時間、圧縮率ともにバランスのとれた［通常圧縮］をお勧めします。

・パスワード保護の設定

バックアップファイルのパスワード保護と暗号化をサポートしています。まず、［パスワード保護］のチェックボックスにチェックを入れ、パスワードを入力します。次に、暗号化レベルの「RCS」、「AES128 ビット」、「AES256 ビット」から選択して設定します。バックアップ ファイルを外部保管する場合やサイバー攻撃などから安全に保護します。

7. ［オプション］の設定になります。ここでの設定例として、以下の［保有ポリシー］と［E メール通知］の設定を行い、［次へ］をクリックします。

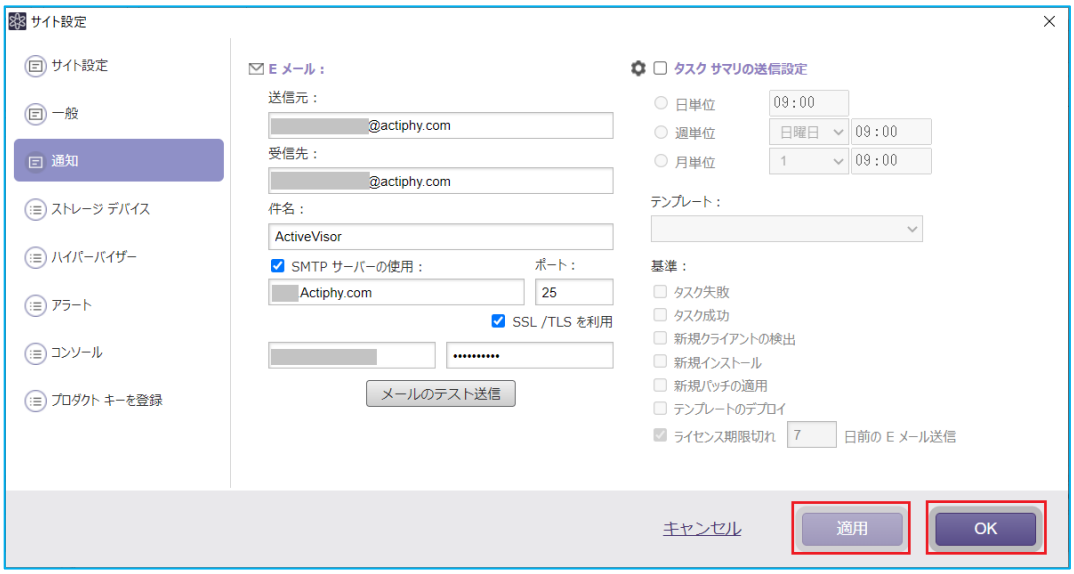
・保有ポリシーの設定

バックアップ保存先に残すバックアップの世代数を設定します。［保有ポリシーを有効にする］のチェックボックスにチェックを入れます。［保有するバックアップの世代数：］を「3」に設定します。この設定で、バックアップの保存先に 3 世代分のバックアップが残ります。※ActiveImage Protector は、ベースバックアップとそれに紐づく増分バックアップを 1 世代として管理しています。

・E メール通知の設定

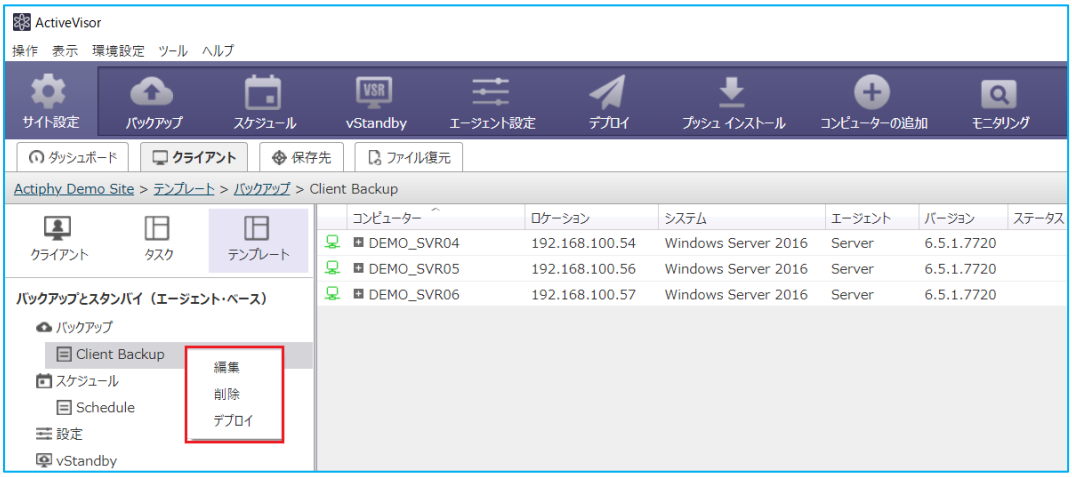
［E メール通知を行う］のチェックボックスにチェックを入れます。［タスク失敗時］を選択して、バックアップタスクがエラーなどで失敗した場合のみ E メール通知を行います。次に、［ActiveVisor を使用してメールを送信する］にチェックを入れます。ActiveVisor からバックアップタスクの成功/失敗/終了時に、E メール通知を行います。ActiveVisor から E メール通知をおこなうには、あらかじめ ActiveVisor の［サイト設定］→［通知］から送信設定を行います。

8. ActiveVisor の［サイト設定］→［通知］を選択して、E メール通知の送信設定を行います。すべての設定が完了したら、［メールのテスト送信］を実行して正常動作を確認します。テストメールの正常送信が確認されたら、［適用］→［OK］をクリックします。



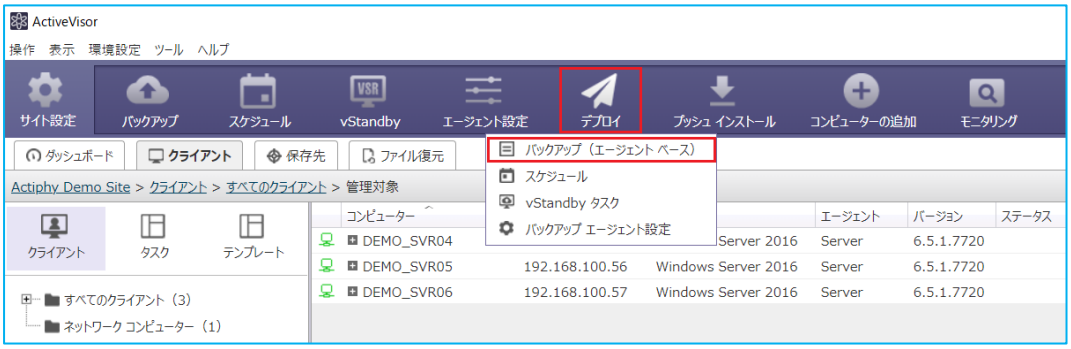
9. サマリの表示となります。設定事項を確認して、［保存］をクリックして作成したバックアップ テンプレートを保存します。

10. 保存すると、［クライアント］タブの［テンプレート］から参照できるようになります。スケジュール テンプレート同様に、テンプレートの再編集、削除、デプロイなどが行えます。

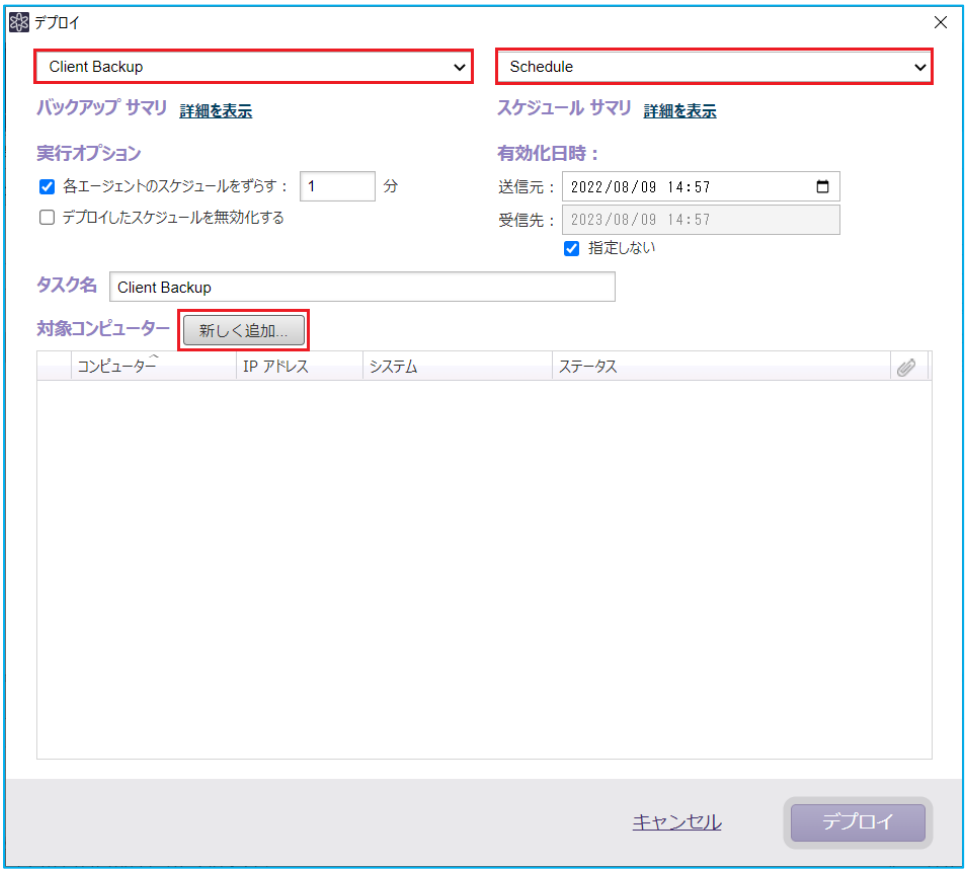


4-3. 管理対象コンピューターにテンプレートのデプロイ

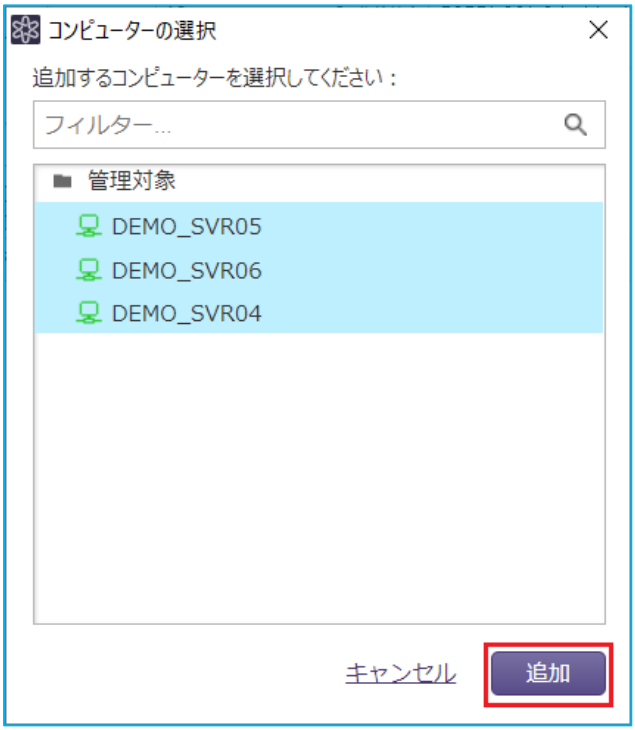
1. トップメニューの［デプロイ］を選択すると、サブメニューが表示されます。対象コンピューターにテンプレートをデプロイするには、［バックアップ（エージェントベース）］を選択します。



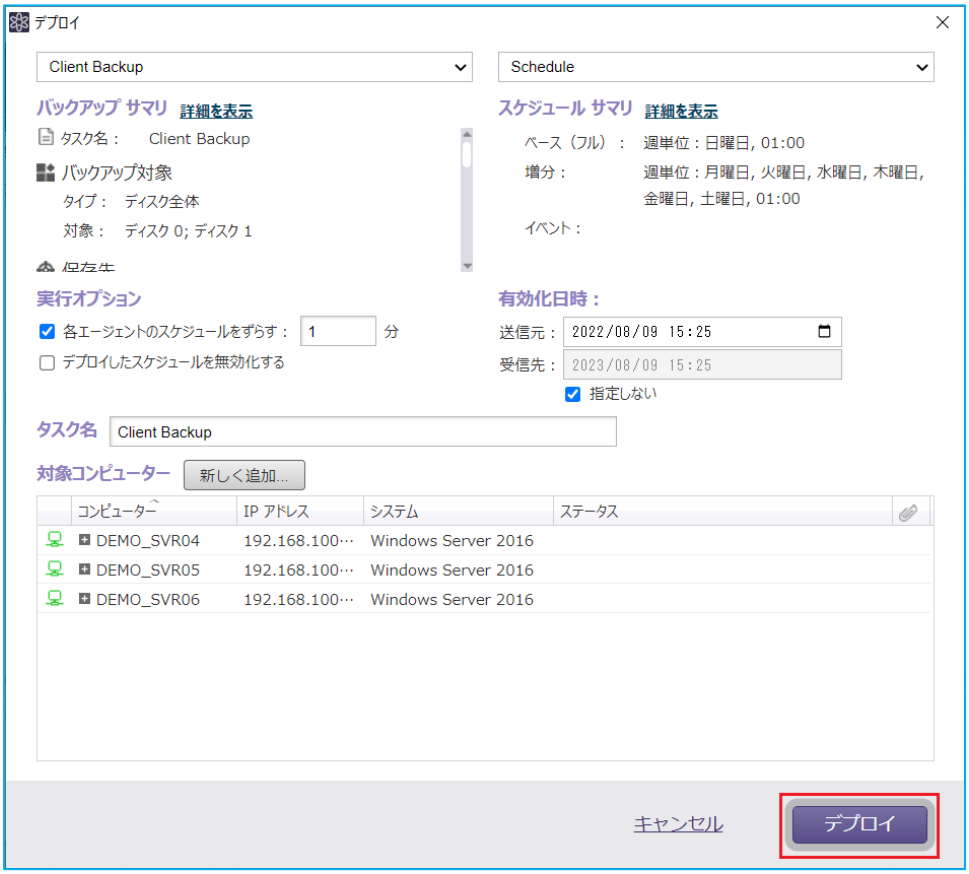
2. ［バックアップ テンプレートを選択してください］と［スケジュール テンプレートを選択してください］のそれぞれに、前項の 4.1、4.2 で作成したテンプレート［Client Backup］、［Schedule］を選択します。次に、［新しく追加］をクリックして、デプロイする管理対象コンピューターを選択します。



3. デプロイする管理対象コンピューターを選択して、［追加］をクリックします。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



4. ［対象コンピューター］に、選択したコンピューターが追加されます。［実行オプション］では、以下の設定を行います。



［実行オプション］の設定

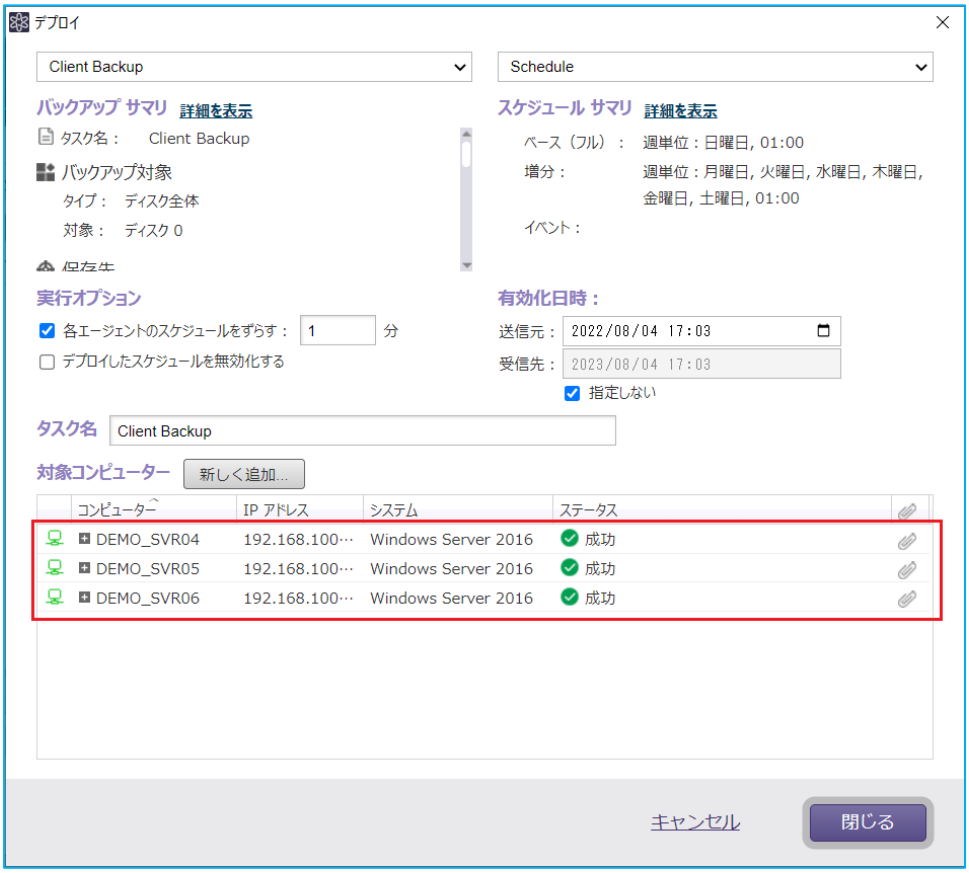
・各クライアントのスケジュールをずらす：
このオプションにチェックを入れると、複数のコンピューターに配布する場合、タスクの実行時間を指定した時間分ずらします。

・デプロイしたスケジュールを無効化する］：
このオプションにチェックを入れると、デプロイされたスケジュールが無効化されます。

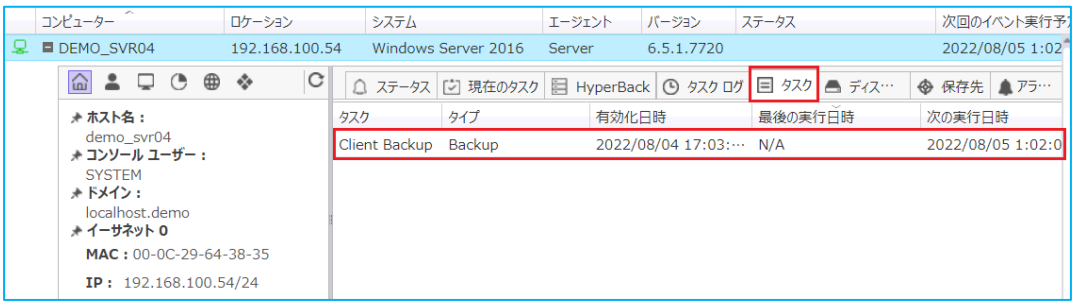
・有効化日時：
デプロイするバックアップスケジュールの有効化期間を指定します。［指定しない］にチェックを入れると、バックアップスケジュールは無期限に有効となります。

以上で問題なければ、［デプロイ］をクリックします。対象コンピューターにバックアップとスケジュールのテンプレートがデプロイされます。

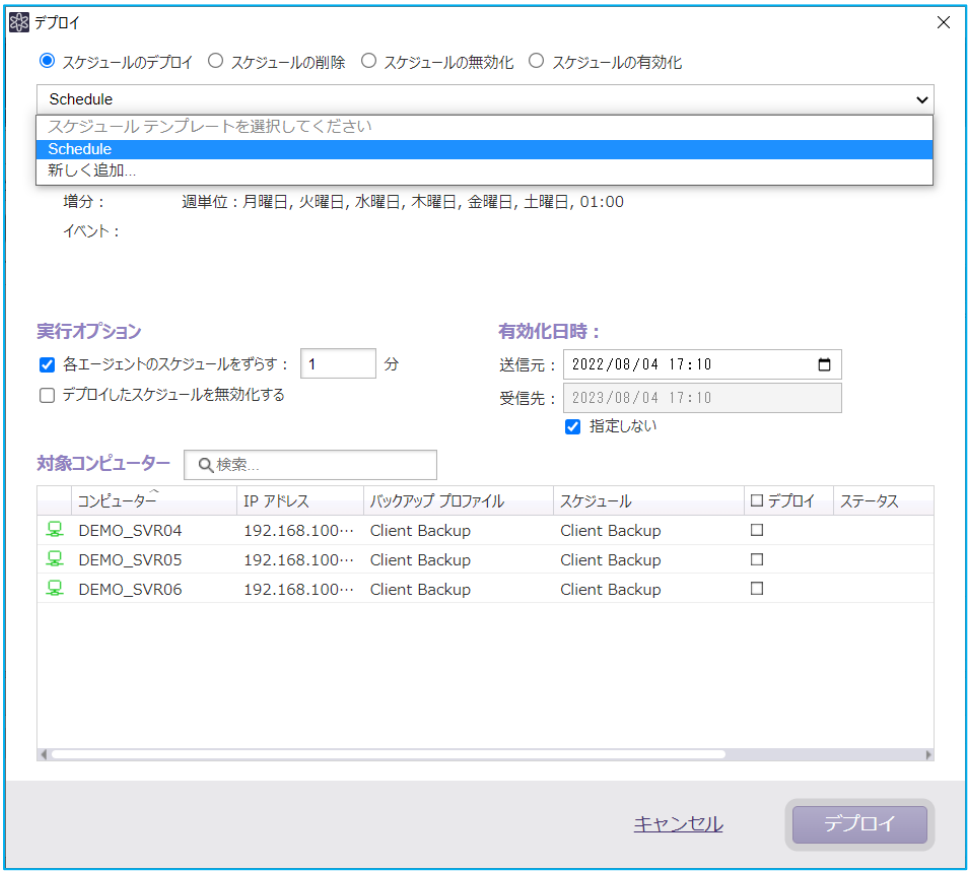
5. 成功すると、以下のように「成功」と表示されます。



6. コンピューターの［タスク］タブでは、デプロイされたタスクを確認できます。



7. ［デプロイ］メニューには、［スケジュール］メニューもあります。こちらを選択すると、以下のデプロイダイアログが表示されます。こちらでは、バックアップスケジュールのみが選択可能です。バックアップスケジュールのみを更新したい場合などに使用可能です。また、スケジュールのデプロイに加えて、デプロイ済のスケジュールの削除、無効化、有効化を指定できます。

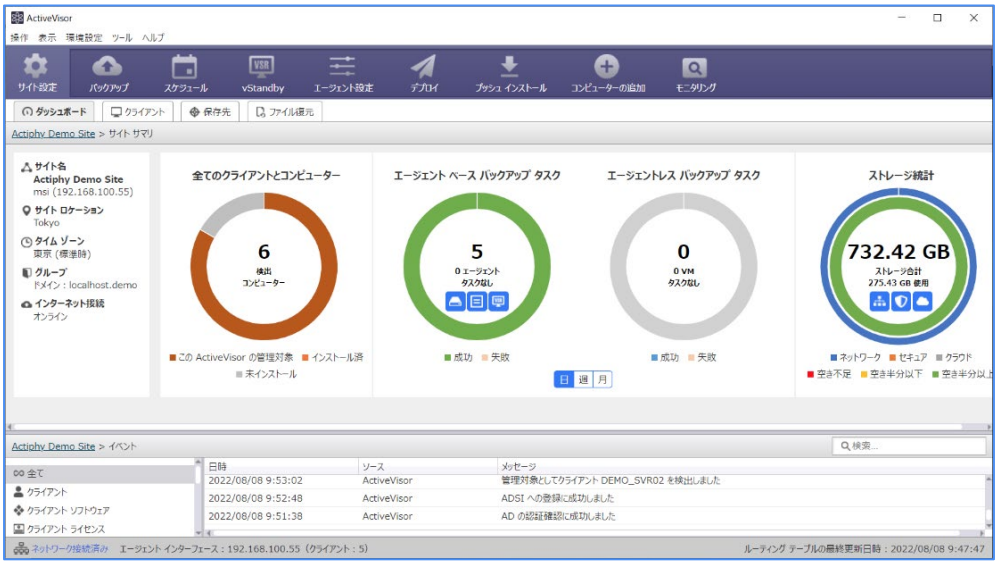


5. ActiveVisor による監視

実際に、管理対象コンピューターのバックアップが実行されるようになると、さまざまな情報がログなどに保存されていきます。日々のバックアップ運用管理などに利用します。

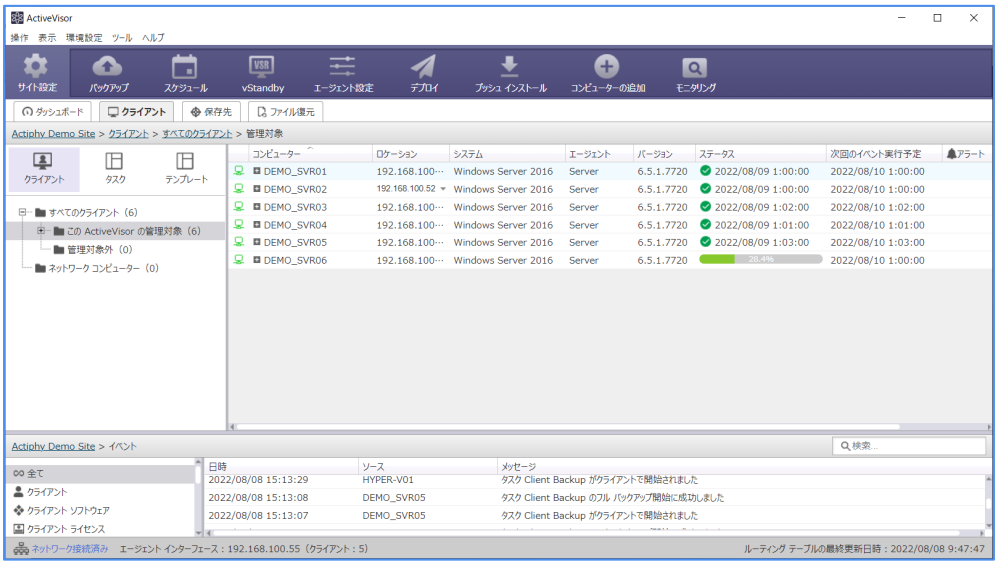
5-1. ［ダッシュボード］タブ

1. ［ダッシュボード］タブでは、検出したコンピューターの数、エージェントベースのバックアップタスクの数、エージェントレスのバックアップタスクの数、タスクの成功と失敗、バックアップ保存先のストレージの空き容量などが円グラフでグラフィカルに表示されます。

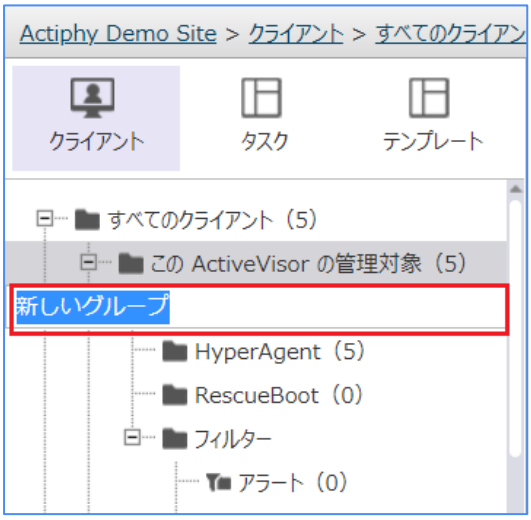


5-2. ［クライアント］タブ

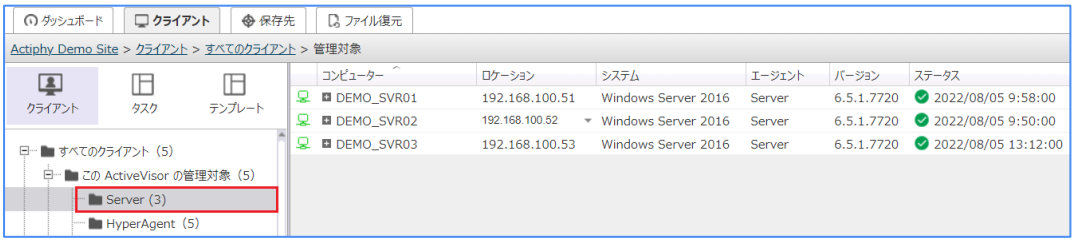
1. ［クライアント］タブでは、管理対象コンピューターのバックアップタスクなどの状況が一覧で表示されます。多数のコンピューターを管理している場合には、同時に表示されますので状況をすばやく把握することができます。



2. コンピューターのリストでは、サブグループを作成し、管理対象コンピューターのグループ分けが可能です。［この ActiveVisor の管理対象］を右クリックすると、コンテキストメニューに、［新規グループの作成］が表示されます。［新規グループの作成］メニューを選択すると、［この ActiveVisor の管理対象］の下に「新しいグループ」というサブグループが作成されます。

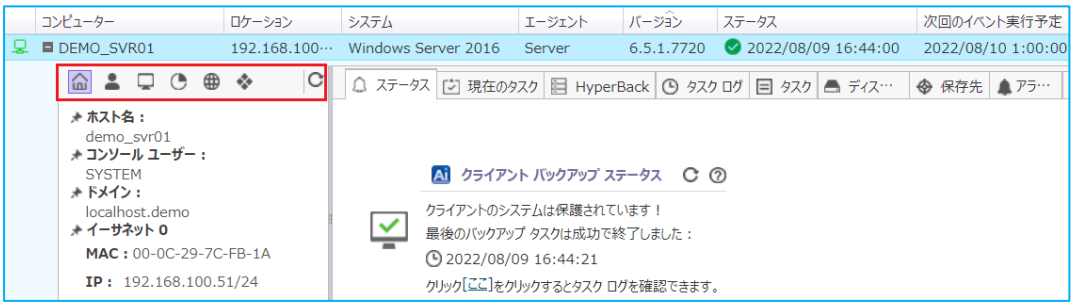


3. 作成されたサブグループへは、対象のコンピューターをドラッグ&ドロップして移動します。ここでの設定例として、「Server」というサブグループを作成し、DEMO_SVR01～DEMO_SVR003 の 3 台のコンピューターを移動しています。

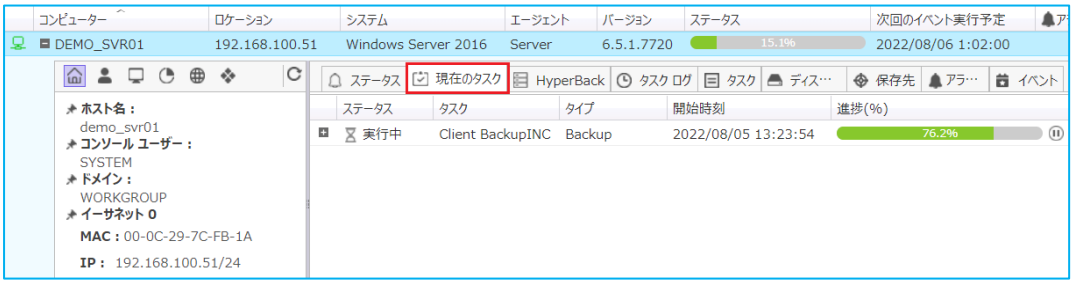


4. 管理対象コンピューターの先頭にある［+］をクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。

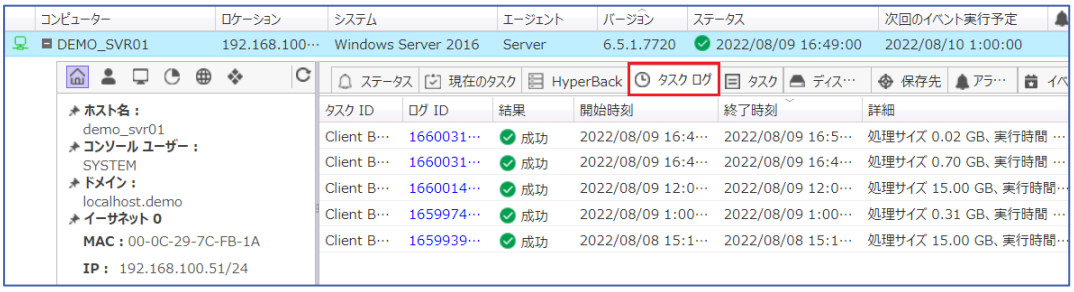
5. 左側の上にいくつかボタンが並びます。ここでは、管理対象コンピューターの OS やネットワークなどのインベントリー情報を確認できます。



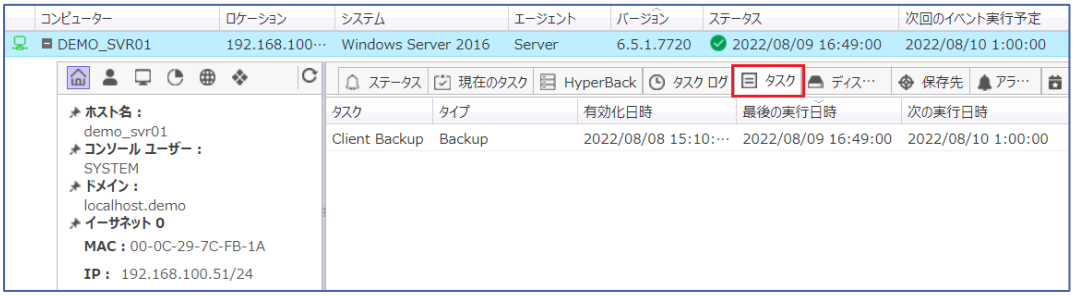
6. 右側には、複数のタブが並びます。［現在のタスク］タブでは、実行中のタスクの状況などを確認できます。実行中のタスクはステータスバーに、その進捗度合いと割合が%で表示されます。



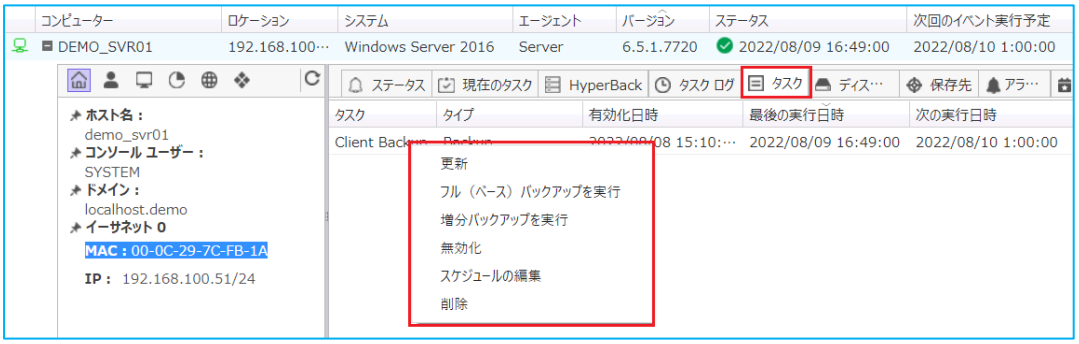
7. ［タスクログ］タブでは、コンピューターのタスクログを確認できます。各「ログ ID」をクリックすると、タスクログの詳細な内容が表示されます。



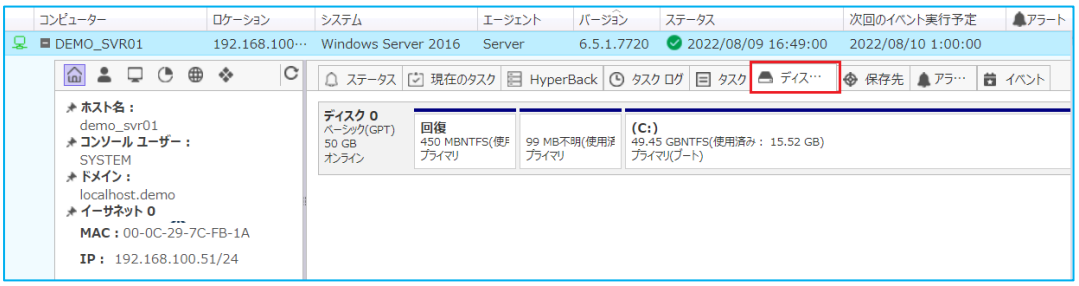
8. ［タスク］タブでは、管理対象コンピューターに設定されたタスクを確認できます。



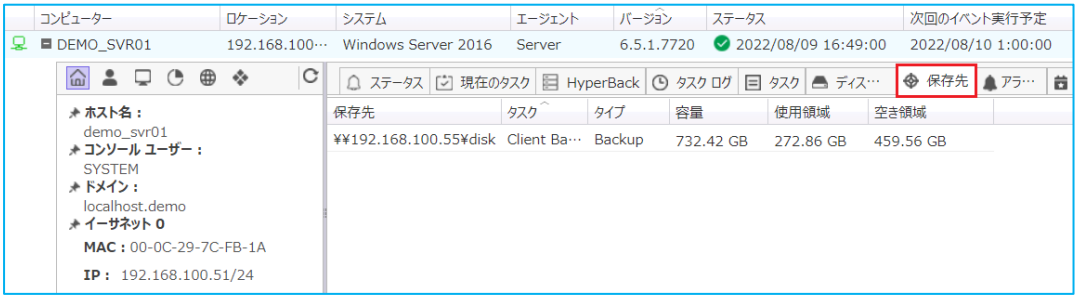
9. 「タスク名」を右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、タスクの「フル（ベース）バックアップを実行」、「増分バックアップを実行」、「タスクの無効化」、「スケジュールの編集」、「タスクの削除」など各種操作が行えます。



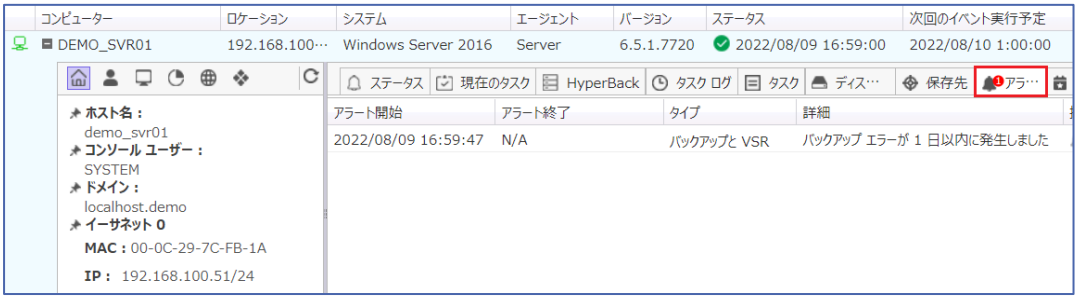
10. ［ディスク情報］タブでは、管理対象コンピューターのディスク情報を確認できます。



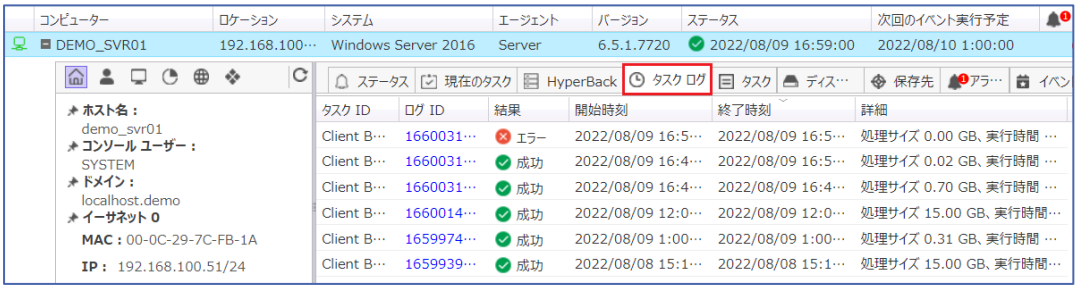
11. ［保存先］タブでは、バックアップ保存先の空き容量などのディスク情報を確認できます。



12. ［アラート］タブでは、管理対象コンピューターで発生した警告の状況を確認できます。

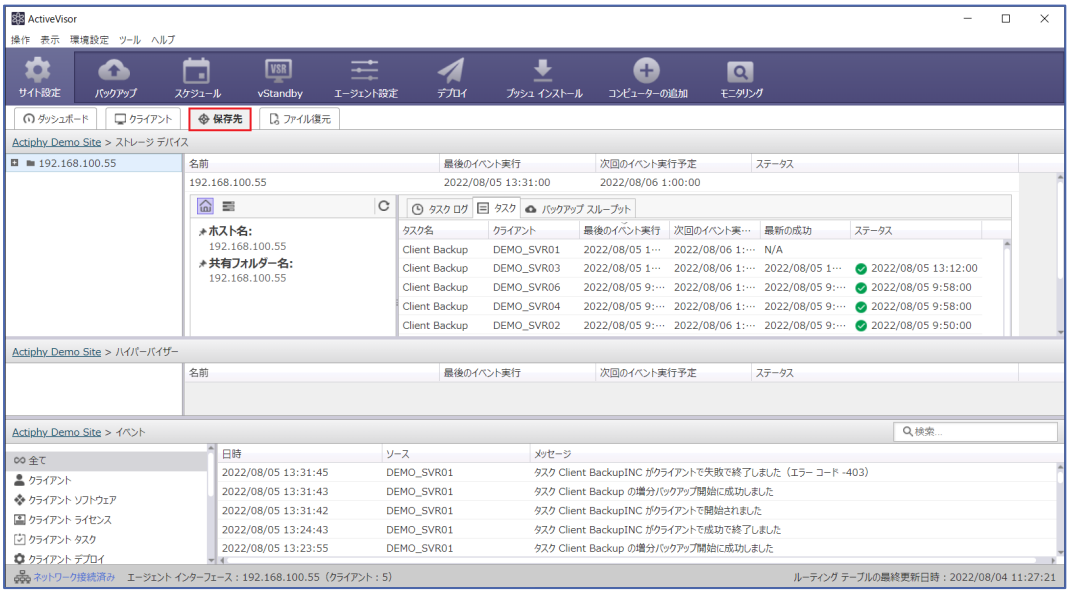


13. 管理対象コンピューターに、障害が発生した赤く表示された「ログ ID」をクリックすると障害の概要を確認できます。



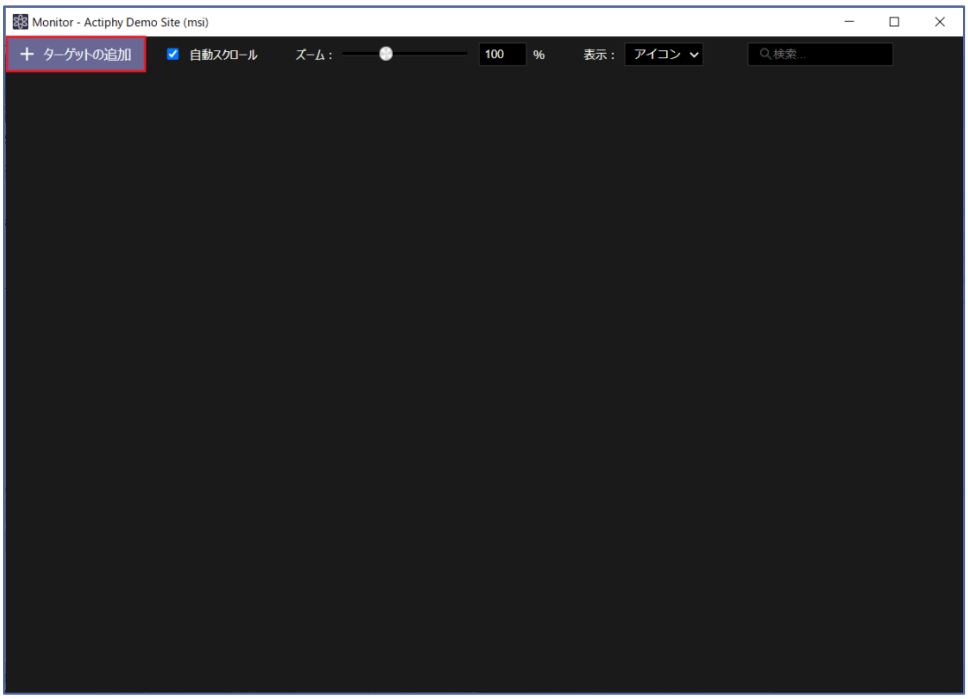
5-3. ［保存先］タブ

1. ［保存先］タブには、 管理対象コンピューターがタスクで使用しているバックアップ保存先の情報やタスクログ、バックアップスループットの情報を確認できます。



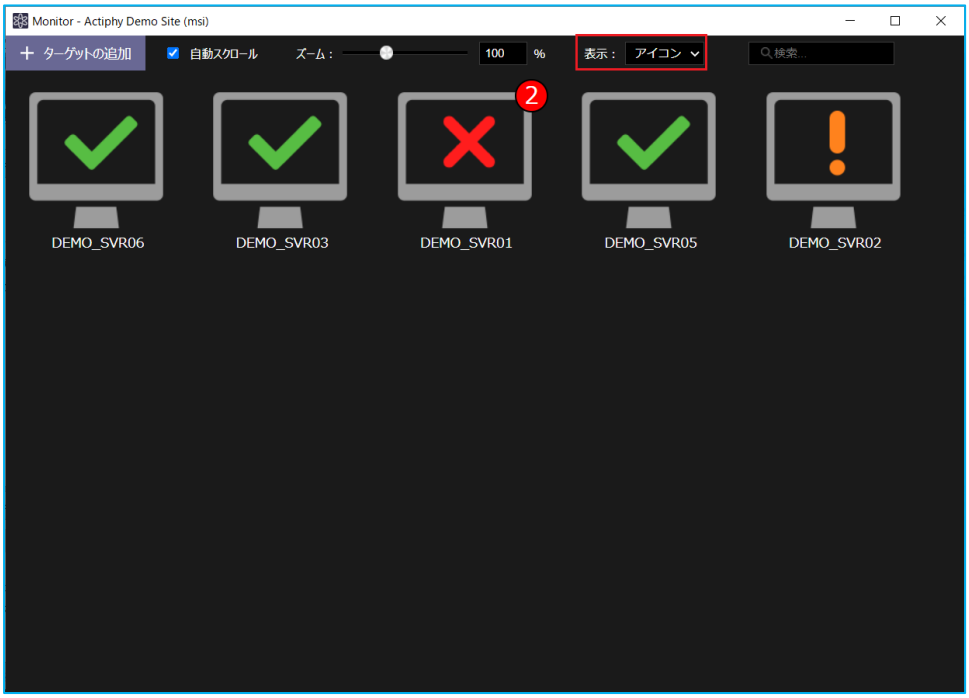
5-4. モニタリング

1. トップメニューの［モニタリング］では、管理対象コンピューターの状態を一覧で表示させることができます。［モニタリング］をクリックすると、以下のように、ActiveVisor モニターが起動します。この時点では、管理対象コンピューターの情報は表示されていません。左上にある［ターゲットの追加］をクリックします。

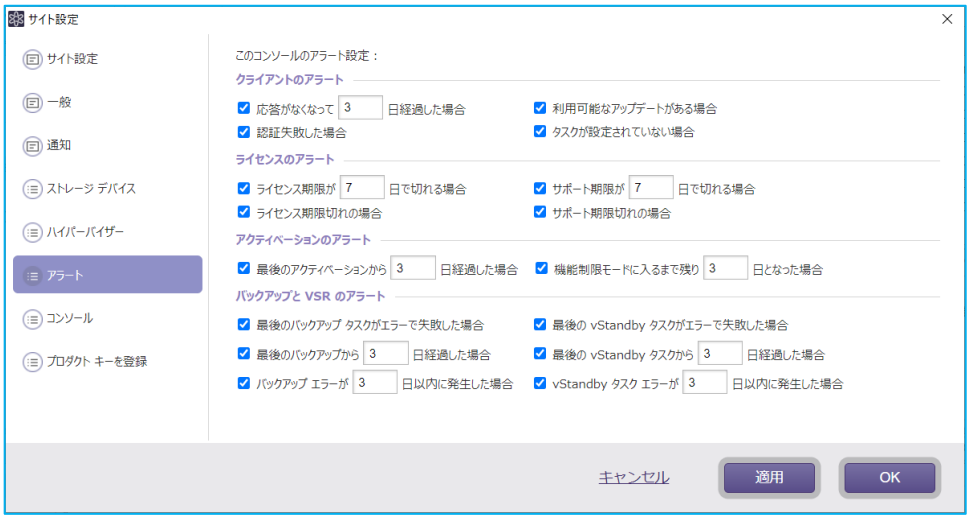


2. 以下のように管理対象コンピューターの選択画面となります。ここで、管理対象コンピューターを選択し、［追加］をクリックします。複数のコンピューター選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。

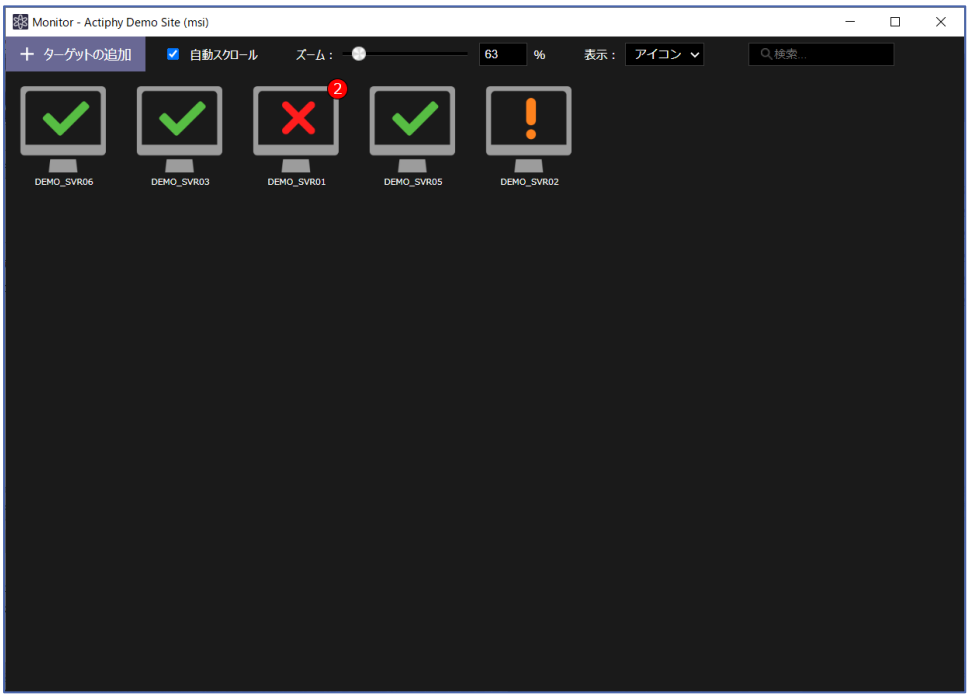
3. ［表示］を［アイコン］を選択している場合、個々の管理対象コンピューターの状態がアイコンで表示されます。障害が発生しているコンピューターは、×印が赤く表示されます。障害の発生していないコンピューターは、緑のチェック印になります。オレンジの！印は、以下の ActiveVisor のアラート設定に指定した期間バックアップが実行されていない場合や ActiveVisor との通信が途絶えている場合など警告として表示します。多数のコンピューターを管理している場合には、同時に表示させることで状況をすばやく把握することができます。



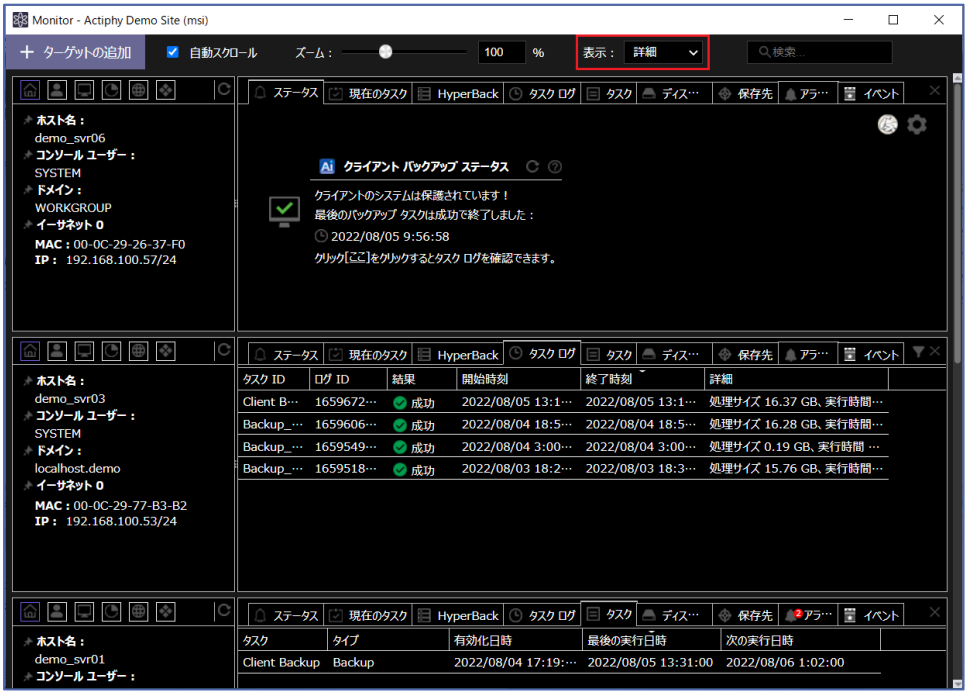
ActiveVisor のアラート設定



4. さらにズーム機能で、拡大・縮小表示も可能です。



5. ［表示：］メニューには、もう 1 つ［詳細］があります。［詳細］を選択すると ActiveVisor のメイン画面の［エージェントベース］タブの詳細表示とほぼ同じものです。ActiveVisor のモニターでは、複数の管理対象コンピューターを複数同時に表示させることができます。



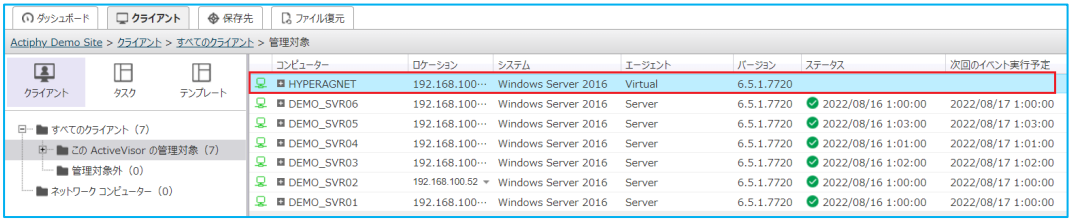
6. ActiveVisor による管理

6-1. エージェントレス バックアップ

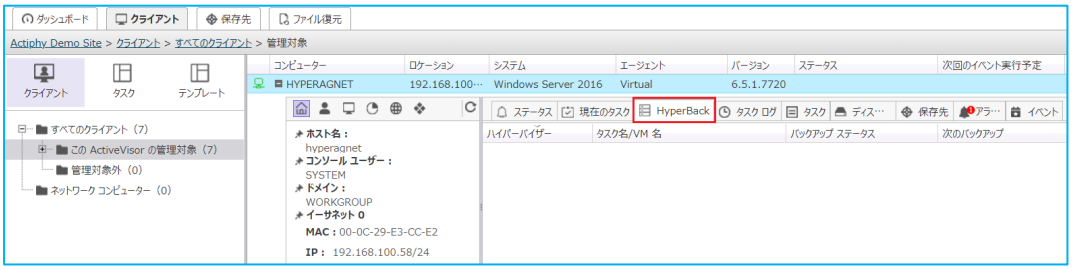
ActiveImage Protector の「HyperAgent」は、ハイパーバイザー（Hyper-V、または VMware vSphere）上で動作する仮想マシンにエージェントをインストールすることなく、バックアップを行う機能（エージェントレス バックアップ）です。ここでは、ActiveVisor による仮想マシンのエージェントレス バックアップの設定手順について説明します。

※エージェントレス バックアップを行うには、バックアップ対象の仮想マシンが構成されているハイパーバイザーと同一ネットワーク上に「HyperAgent」 が導入され、対象のハイパーバイザーが登録されている必要があります。

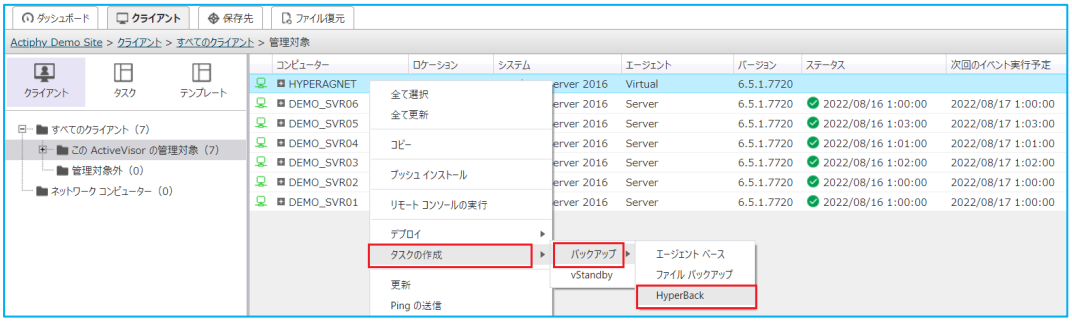
1. ここでの設定例として、「HyperAgent」が導入されているコンピューター「HYPERAGENT」からの設定手順を説明します。



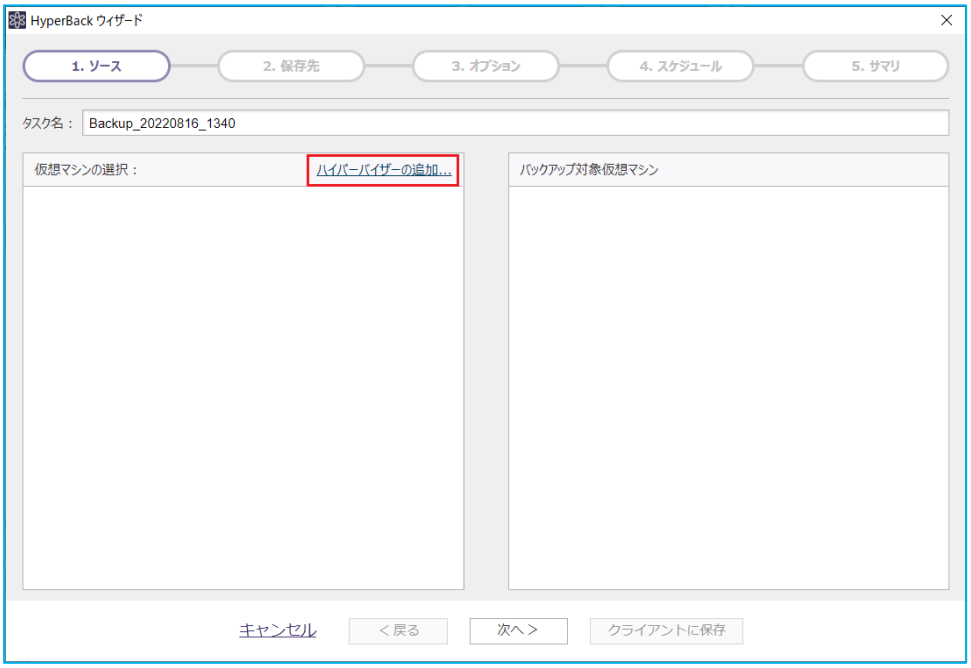
2. エージェントレス バックアップは「HyperBack」という機能です。HyperAgent のインストールされている管理対象コンピューターの詳細表示には「HyperBack」のタブが表示されます。



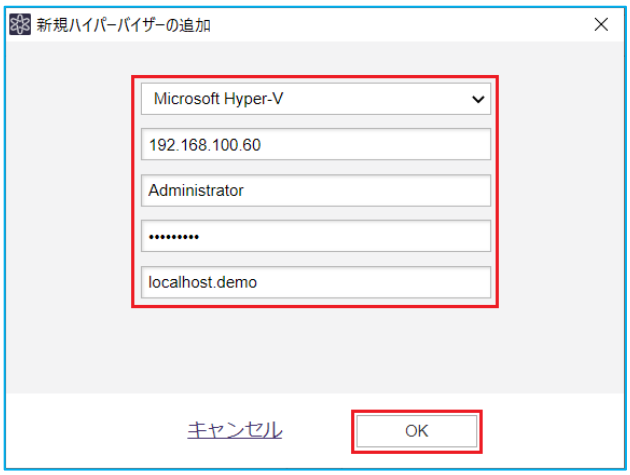
3. コンピューターリストから、コンピューターを右クリックしてコンテキストメニューから、[タスクの作成] → [バックアップ] → [HyperBack] をクリックしてバックアップの設定を行います。



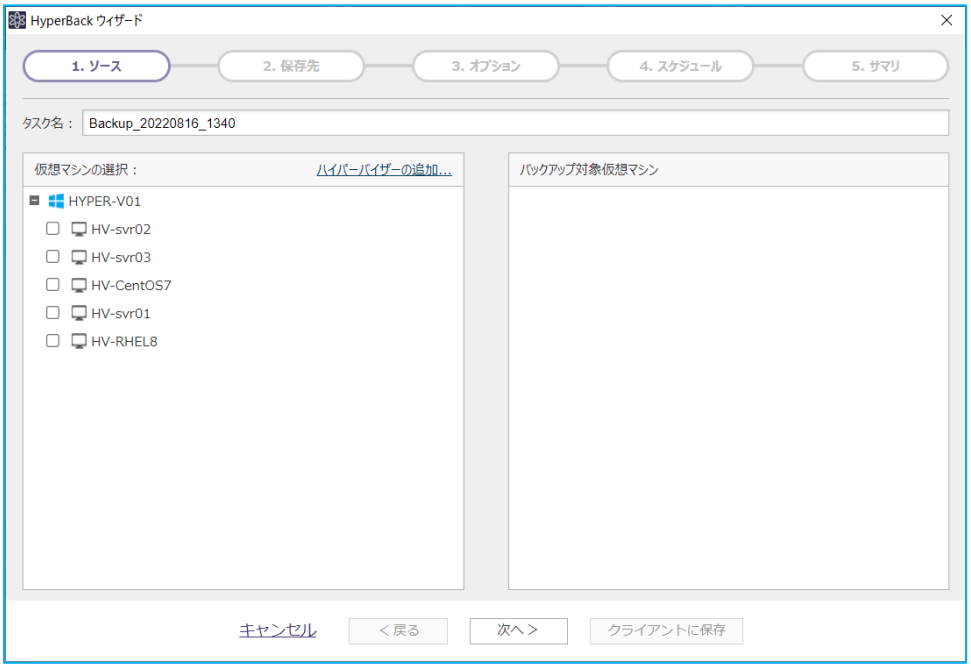
4. 最初に、バックアップ対象の仮想マシンが構成されているハイパーバイザーを登録します。
［ハイパーバイザーを追加］をクリックします。



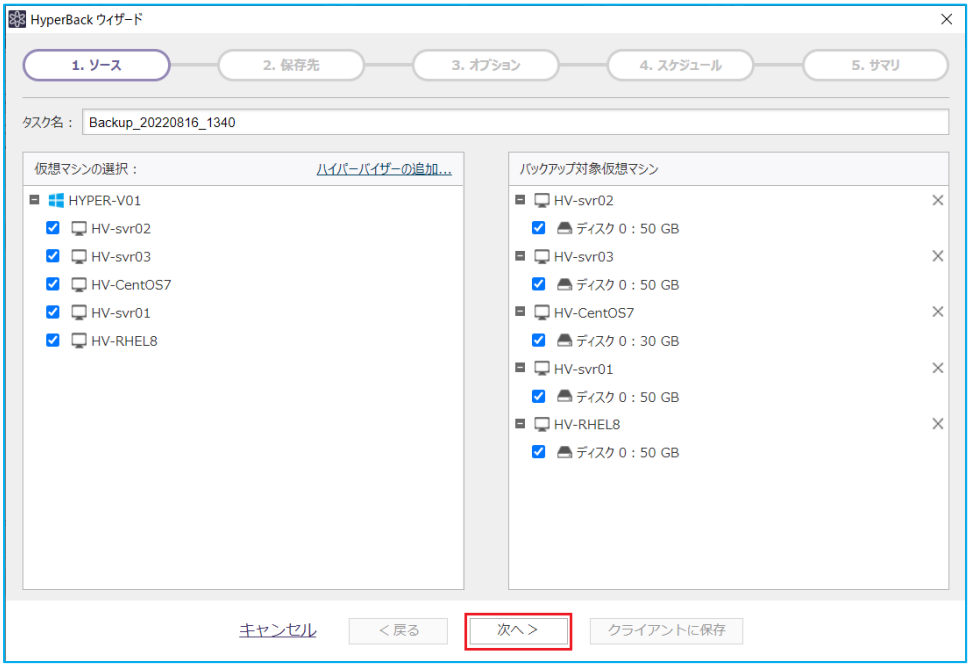
5. ハイパーバイザーを選択して、認証情報を入力します。ここでの例として、［ハイパーバイザータイプ：］に「Microsoft Hyper-V」を選択して、［ホスト名、または IP アドレス：］に Hyper-V ホストの IP アドレス「192.168.100.60」、［ユーザー名：］に「Administrator」、［パスワード：］に設定されているパスワードを入力してから、［OK］をクリックします。



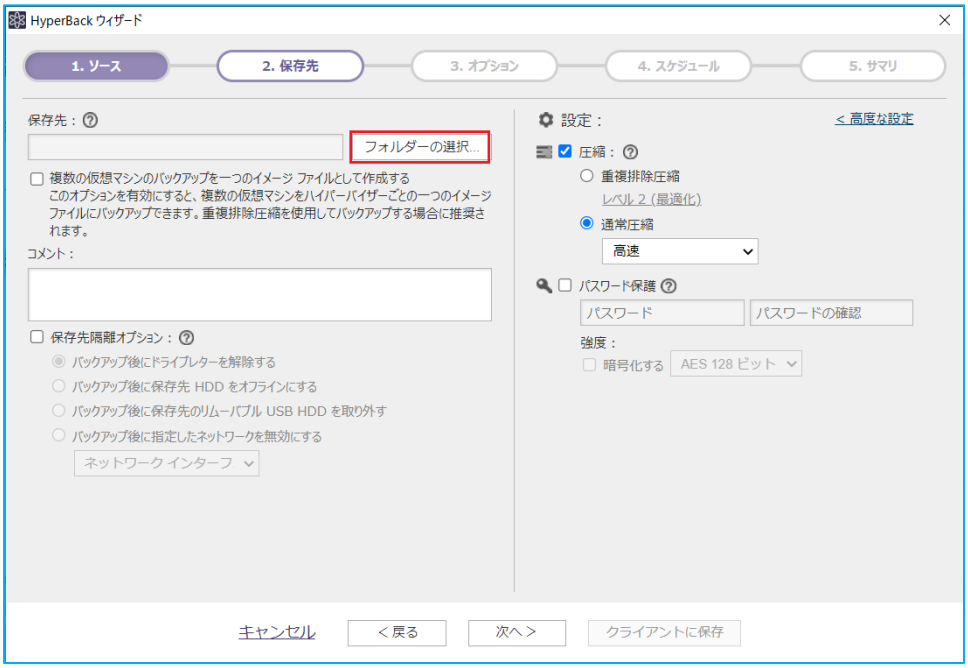
6. HyperBack ウィザードが表示されますので、バックアップ対象の仮想マシンの選択を行います。ハイパーバイザーを展開すると、そのハイパーバイザー上の仮想マシンがリストされます。



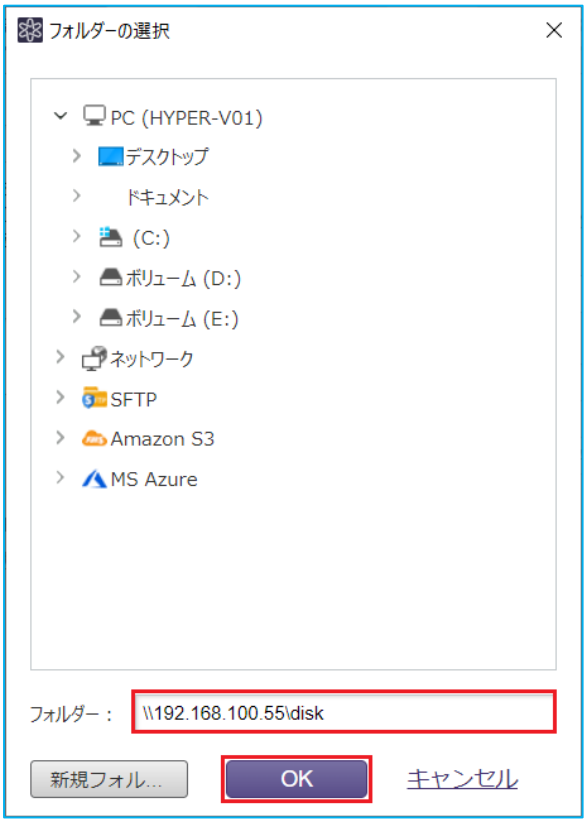
7. バックアップ対象の仮想マシンにチェックをいれると、左ペインにバックアップ対象候補のディスクが表示されます。次に、バックアップ対象のディスクにチェックをいれ、［次へ］をクリックします。



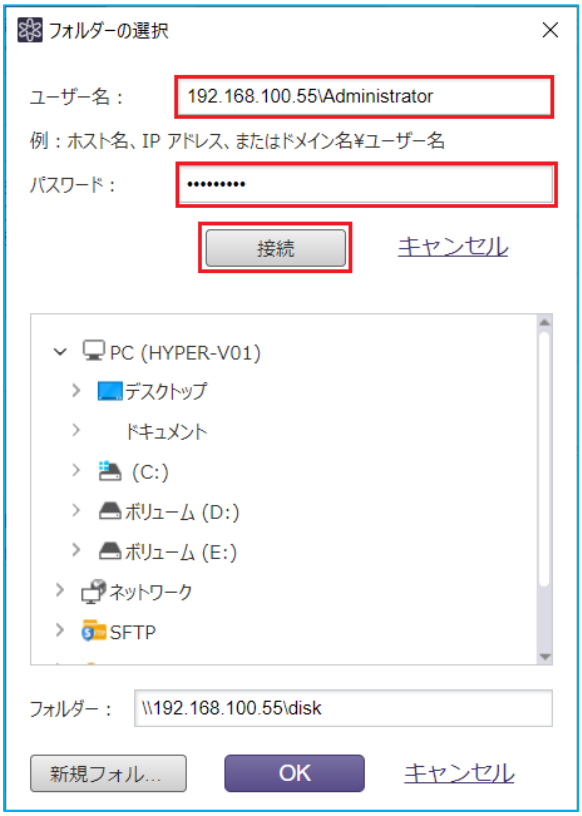
8. バックアップ保存先を指定します。［フォルダーの選択... ］をクリックします。



9. バックアップ保存先の選択ダイアログが表示されます。ここでの設定例として、ネットワーク共有フォルダー「¥¥192.168.100.55¥disk」を設定します。［フォルダー：］に、「¥¥192.168.100.55¥disk」を入力して、［OK］をクリックします。



10. 共有フォルダーの認証情報（ユーザー名、パスワード）を入力して、［接続］をクリックします。



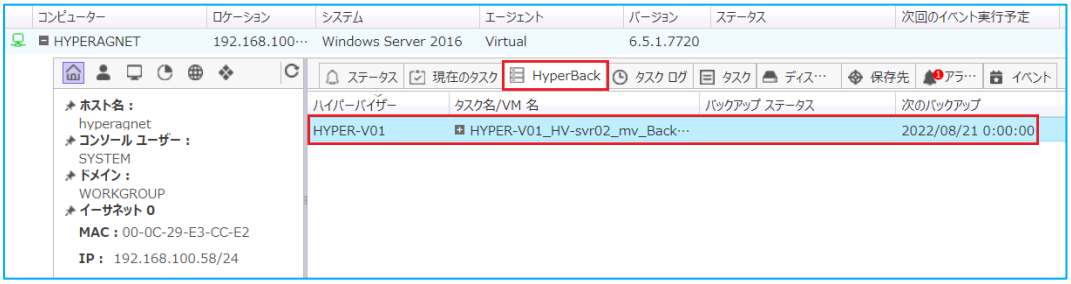
11. バックアップ保存先の設定が完了したら、［次へ］をクリックします。［保存先隔離オプション：］、［設定：］、［高度な設定：］は、必要に応じて設定します。

12. 「保有ポリシー」、「E メール通知」、「実行優先度」などを必要に応じて設定します。ここでの設定例として、［保有ポリシーを有効にする］にチェックを入れ、保有ポリシーの世代数を「3」、対象外は全て削除を設定します。設定が完了したら、［次へ］をクリックします。

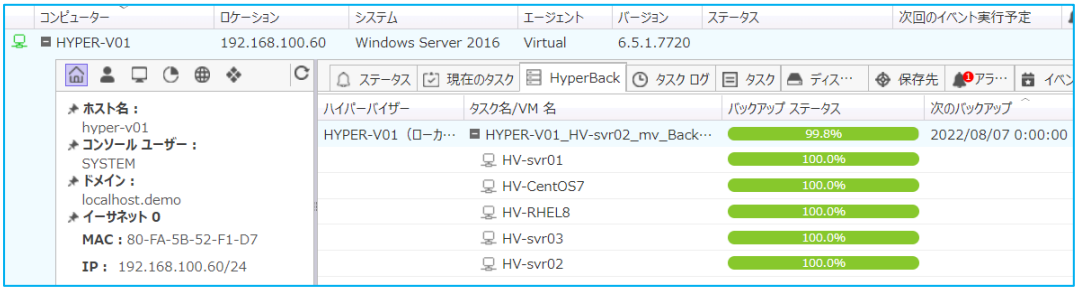
13. スケジュールの設定を行います。ベース、増分各々エージェントベースバックアップと同様の設定が可能です。ここでの設定例として、一般的な毎週日曜日の午前 0 時にベースバックアップ（フルバックアップ）、月曜日から土曜日の午前 0 時に増分バックアップのスケジュール設定を行います。設定が完了したら、［次へ］をクリックします。

14. 最後にサマリ画面で設定が正しいかどうか確認し、問題がなければ「クライアントに保存」をクリックしてエージェントレス バックアップの設定を管理対象コンピューターに保存します。保存したら「閉じる」をクリックして設定を完了します。

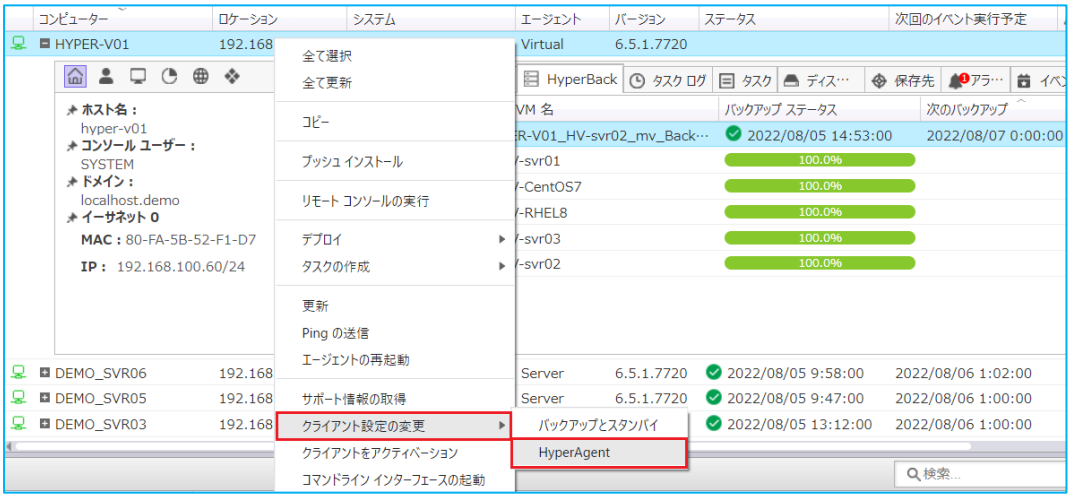
15. コンピューターリストの「HyperBack」タブにタスクが表示されます。



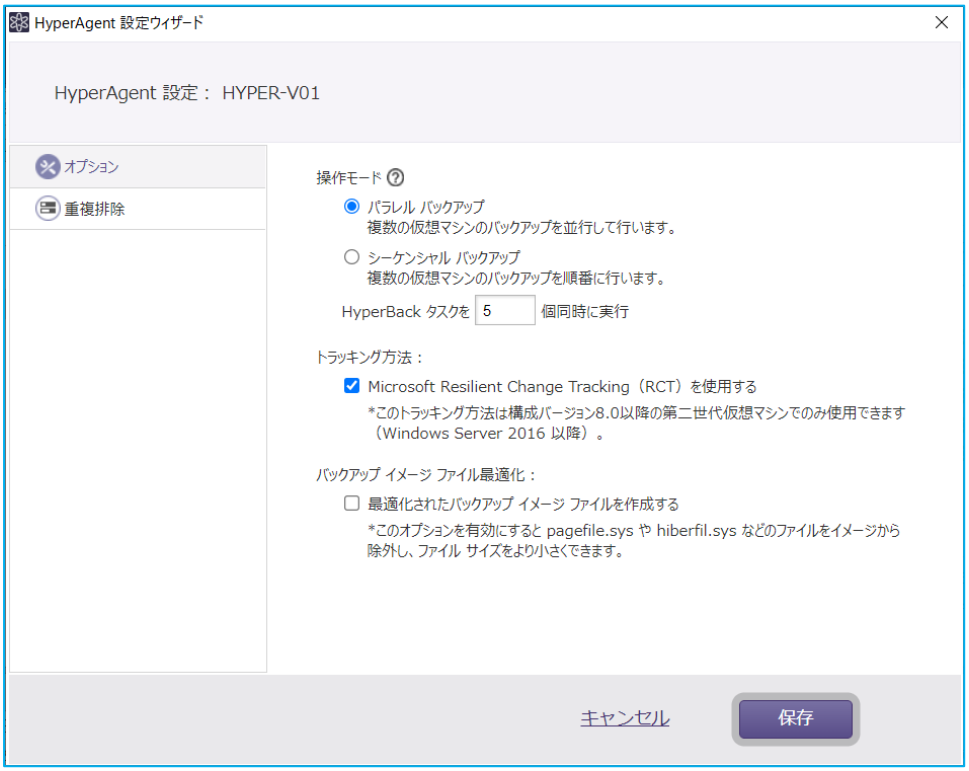
16. エージェントレス バックアップのステータスもここで確認できます。



17. HyperAgent の設定は、対象のハイパーバイザーのコンピューターを右クリックしてコンテキストメニューから、［クライアント設定の変更］→［HyperAgent］を選択します。



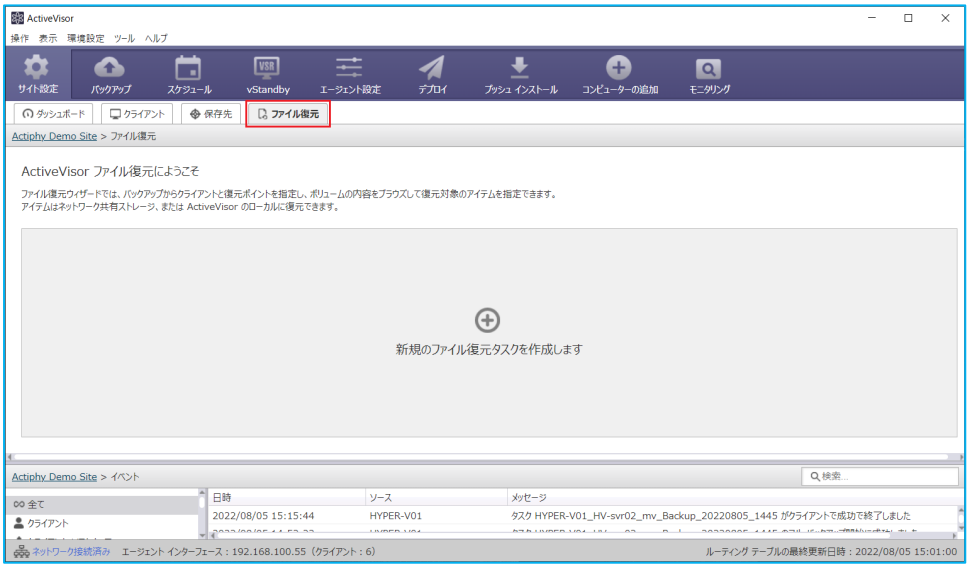
18. 「操作モード」は複数の仮想マシンのバックアップを並行して行うか、順番にひとつずつ行うかの設定です。「HyperAgent」が導入されたコンピューターのマシンリソース、ネットワークリソースに余裕がない時には「シーケンシャル バックアップ」を推奨します。「トラッキング方法」は仮想マシンの増分作成の方法を指定します。Windows Server 2016 以降、第二世代仮想マシンでは Window に標準で搭載された RCT を使用します。それ以外は Actiphy 独自の方法で増分を作成します。



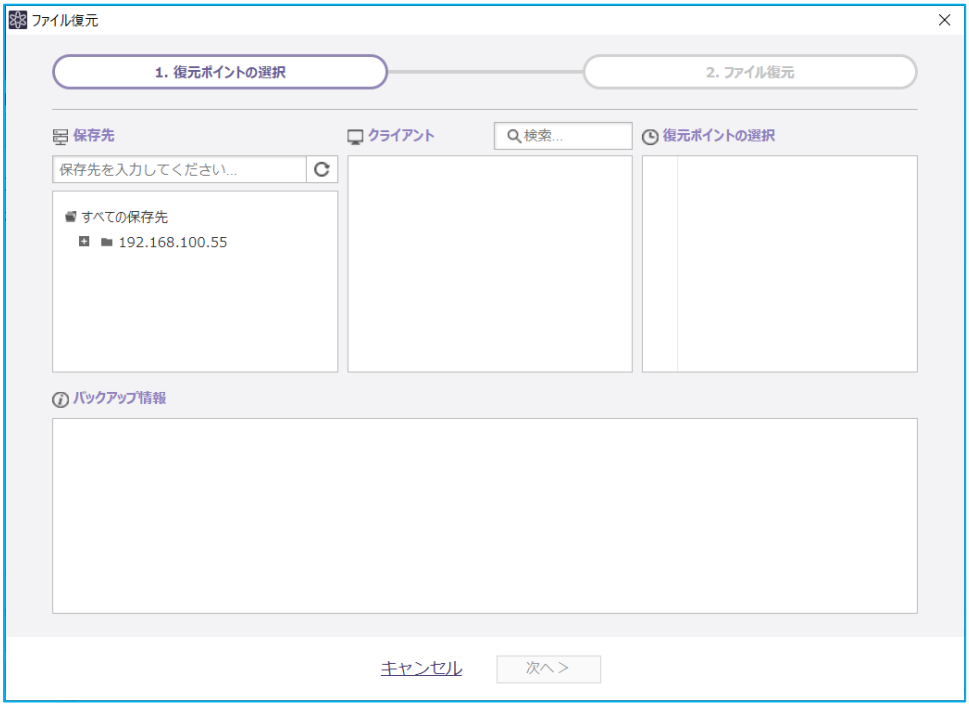
6-2. ActiveVisor ファイル復元

ActiveVisor からバックアップの復元ポイントを指定して、ファイル/フォルダー単位で復元を行うことができます。ただし、復元先は、ネットワーク共有フォルダーか ActiveVisor のローカルファイルシステムに限られます。

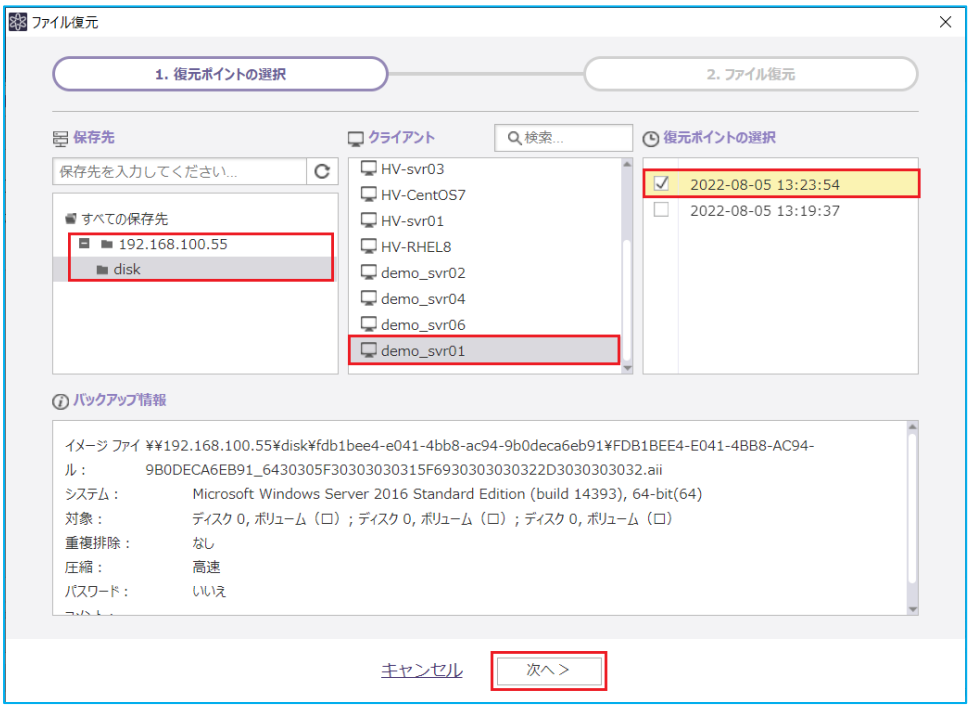
1. ［ファイル復元］タブを選択すると、以下のようになります。



2. 初回の場合、新規のファイル復元タスクの作成から始まります。中央のプラスボタンをクリックすると、ファイル復元のウィザードが起動します。

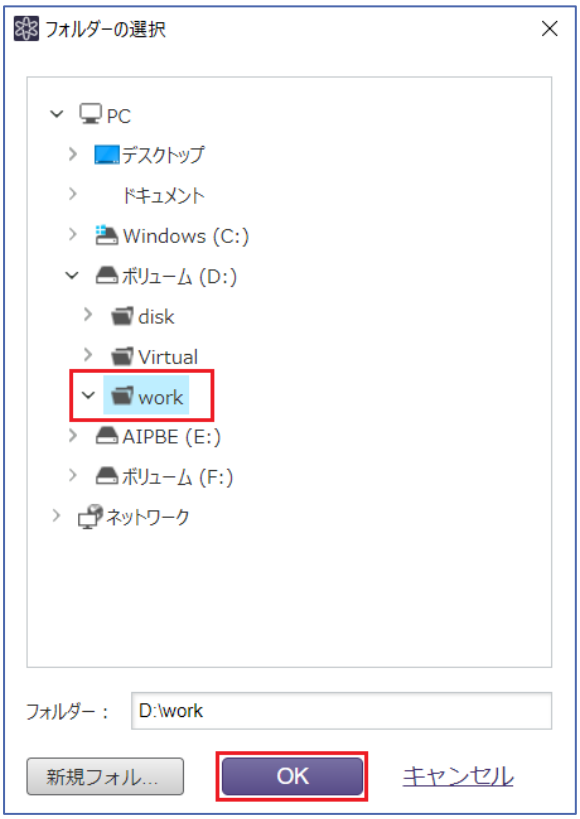


3. ［保存先］は登録した場所、バックアップで使用した場所など、ActiveVisor が発見したものはあらかじめ表示されます。復元するコンピューターを指定して、バックアップの復元ポイントを設定します。同時にバックアップ情報なども表示されます。［次へ］をクリックすると復元ポイントのマウントが行われます。

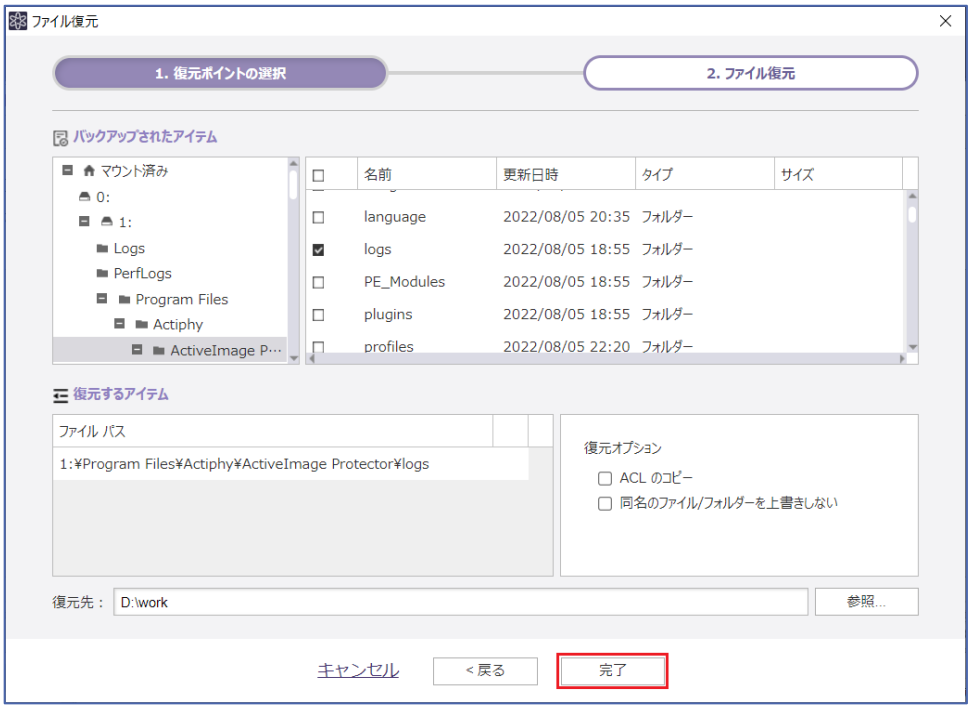

ファイル復元
1. 復元ポイントの選択
2. ファイル復元
保存先
保存先を入力してください...
すべての保存先
192.168.100.55
disk
クライアント
検索...
HV-svr03
HV-CentOS7
HV-svr01
HV-RHEL8
demo_svr02
demo_svr04
demo_svr06
demo_svr01
復元ポイントの選択
2022-08-05 13:23:54
2022-08-05 13:19:37
バックアップ情報
イメージ ファイル：
¥¥192.168.100.55¥disk¥fdb1bee4-e041-4bb8-ac94-9b0deca6eb91¥FDB1BEE4-E041-4BB8-AC94-9B0DECA6EB91_6430305F30303030315F6930303030322D3030303032.aii
システム：
Microsoft Windows Server 2016 Standard Edition (build 14393), 64-bit(64)
対象：
ディスク 0, ボリューム（□）; ディスク 0, ボリューム（□）; ディスク 0, ボリューム（□）
重複排除：
なし
圧縮：
高速
パスワード：
いいえ
キャンセル
次へ >

4. 復元したいファイル/フォルダーを選択します。コンピューターのファイル構造がそのままマウントされます（ActiveImage Protector のバックアップイメージのマウントと似たような機能です）。復元するファイル/フォルダーを選び、［復元先：］を設定します。［参照］をクリックすると復元先の選択の画面が表示されます。また、［オプション］なども必要に応じて適切に設定します。

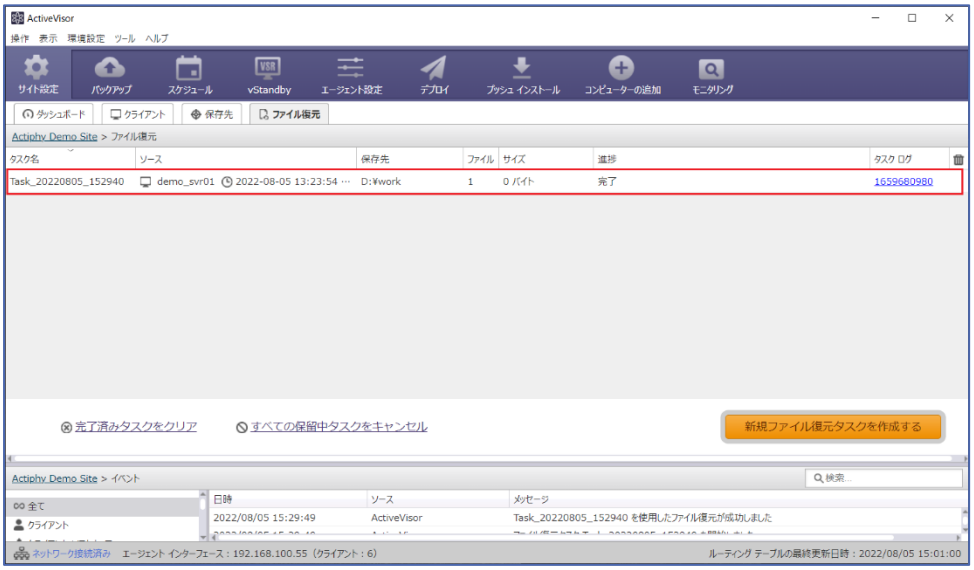
5. ここでの設定例として、ActiveVisor のローカルボリューム「D:¥work」を選択して［OK］をクリックします。



6. ［完了］をクリックすると、復元が開始されます。ActiveVisor が動作しているコンピューター上で実行されますので、他のエージェントを経由したり、ActiveImage Protector を起動したりすることなくファイル/フォルダー単位の復元が可能です。



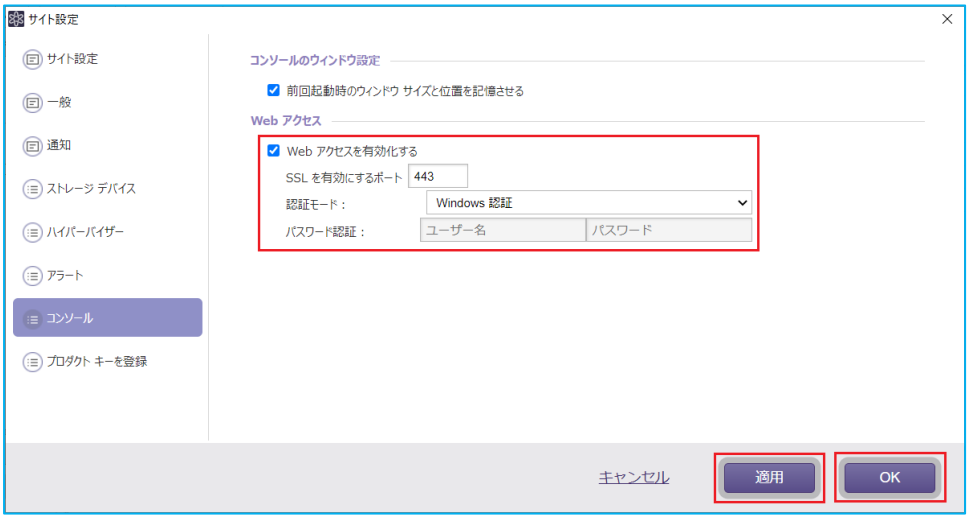
7. 復元が完了する以下の様になります。



6-3. ActiveVisor の Web コンソール

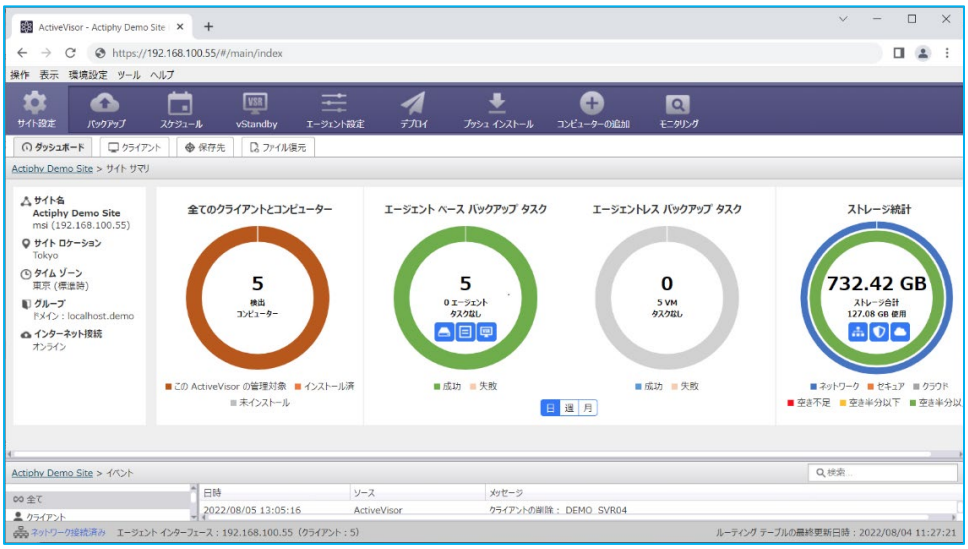
Web ブラウザーを経由して、ActiveVisor のエージェントに接続し、管理対象コンピューターの監視、バックアップエージェントやスケジュールの変更などの操作を行えます。対応する Web ブラウザーは、Google Chrome、Microsoft Edge、Apple Safari です。

1. Web ブラウザーによる操作を行うには、トップメニューの［サイト設定］→［コンソール］を選択して、「Web アクセス」で［Web アクセスを有効化する］にチェックを入れます。接続プロトコルの SSL のポート番号はデフォルトの「443」、［認証モード］は「Windows 認証」を設定します。設定が完了したら、［適用］をクリックして、次に［OK］をクリックすると設定は完了です。



2. ここでの設定例として、Microsoft Edge ブラウザーがインストールされた PC から、ActiveVisor が稼働するコンピューターの IP アドレス「192.168.100.55」を入力します。自動的にログイン画面となります。「Windows 認証」を選択したので、管理者とそのパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

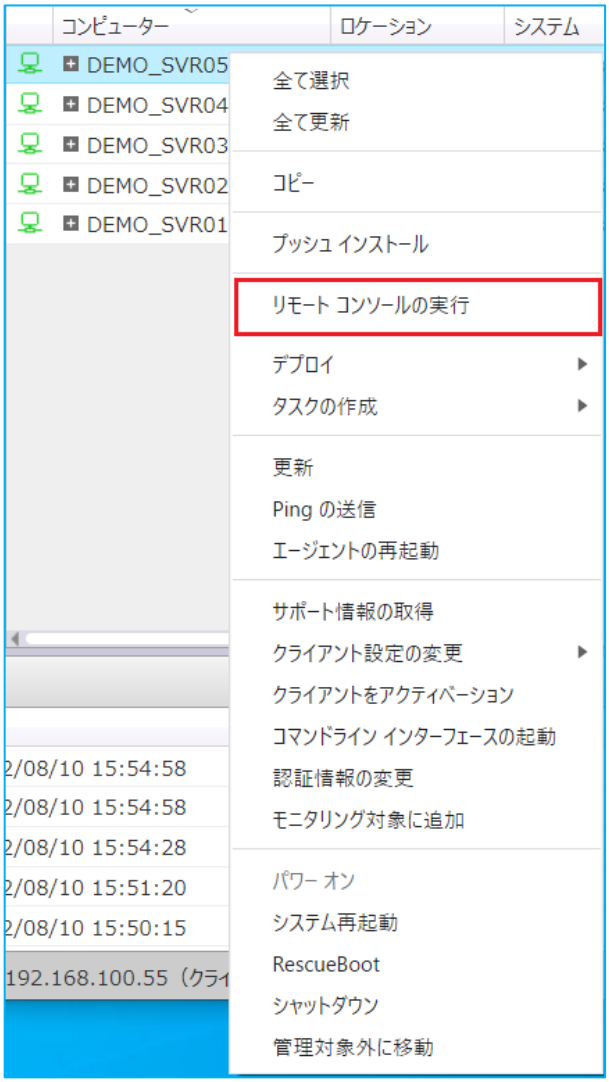
3. ActiveVisor のコンソール画面が表示されます。Web ブラウザーから管理、操作が可能となることで、より柔軟な管理体制を構築できます。



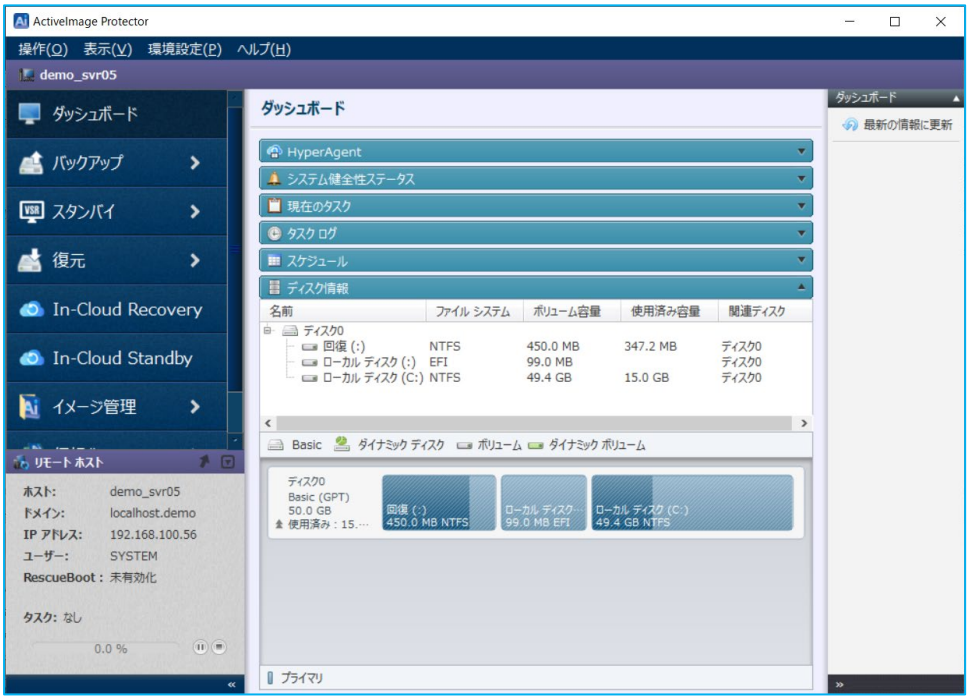
6-4. ActiveVisor のリモート管理コンソール接続

ActiveVisor は、ActiveImage Protector のエージェントに接続して多くの操作を行えます。ここでは、ActiveVisor のリモート管理コンソールから、ActiveImage Protector のエージェントに接続する方法について説明します。

1. ActiveVisor のコンピューターリストから管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［リモートコンソールの実行］をクリックします。



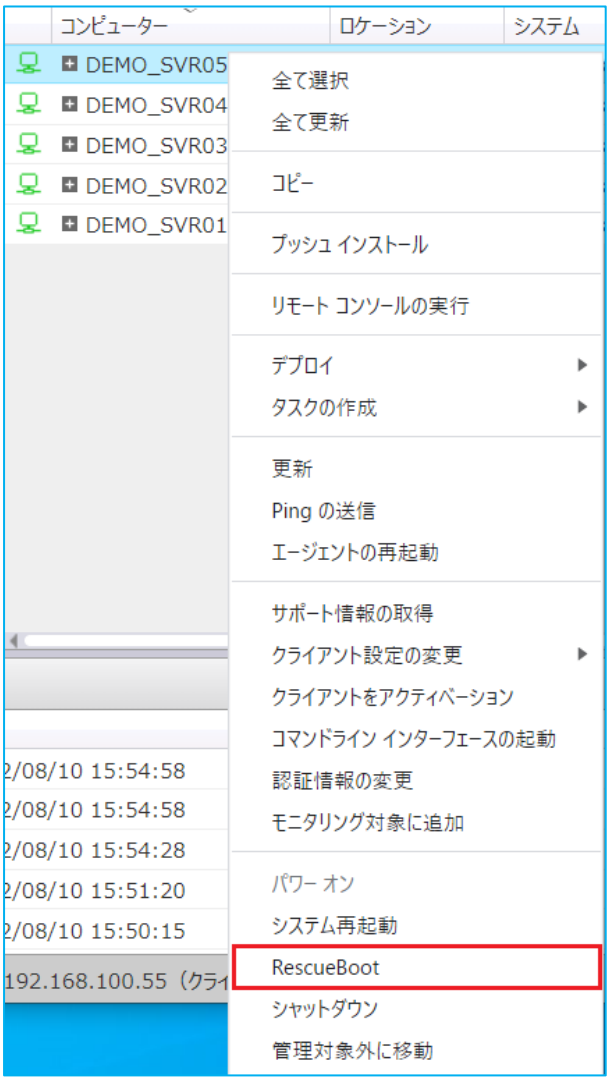
2. リモート管理コンソールが起動します。ActiveVisor から管理対象コンピューターのローカル管理コンソールと同じ操作が行えます。



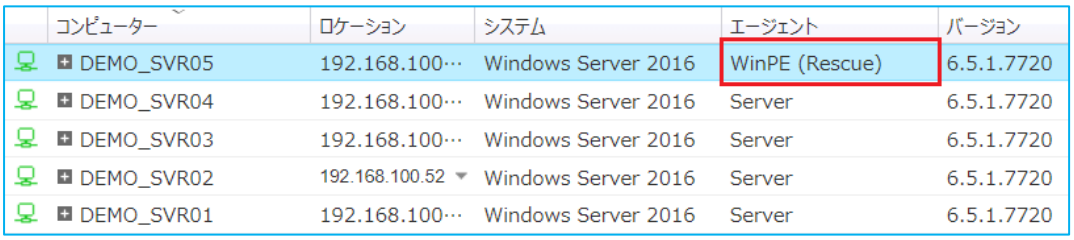
6-5. ActiveVisor から RescueBoot のリモート操作

ここでは、ActiveVisor から管理対象コンピューターの「RescueBoot」のリモート操作について説明します。「RescueBoot」は、ActiveImage Protector の起動環境の媒体を必要とすることなく、起動環境を起動する機能です。※RescueBoot のリモート操作は、対象のコンピューターのシステムが稼働状態である必要があります。

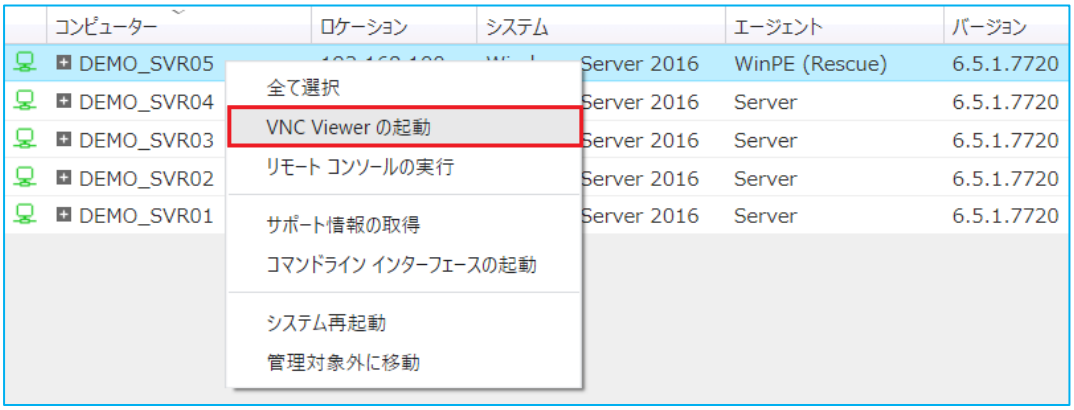
1. ActiveVisor のコンピューターリストから管理対象コンピューターを右クリックしてコンテキストメニューから、［RescureBoot］をクリックします。



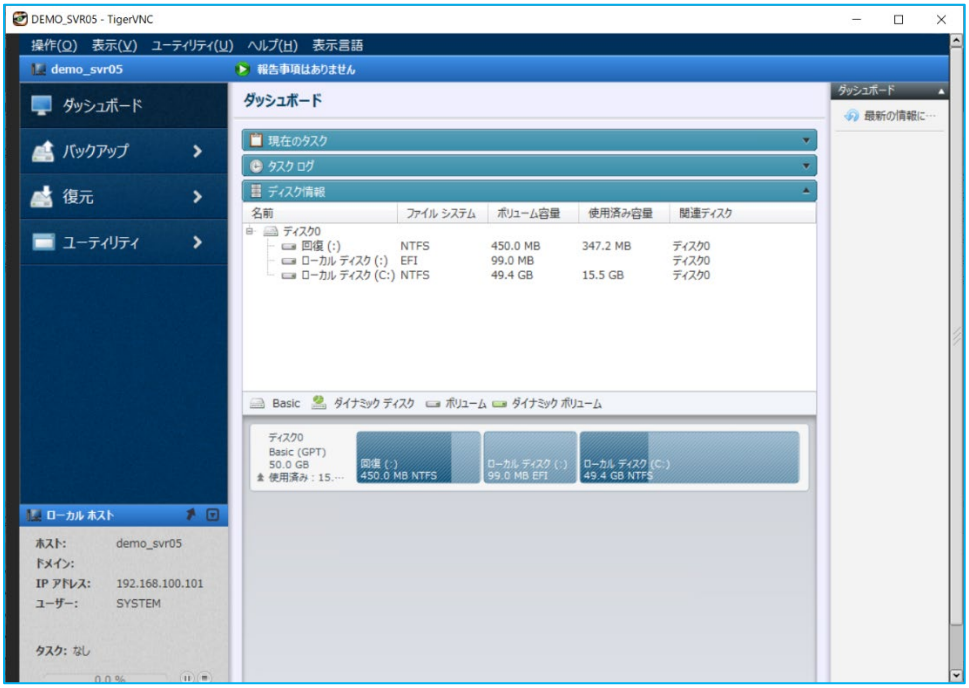
2. 起動環境が起動するまで、しばらく待ちます。起動環境が起動すると「エージェント」の表示が「WinPE (Rescue)」になります。



3. 次に、管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［VNC Viewer の起動］をクリックします。



4. 管理対象コンピューターの起動環境に接続されます。復元対象のコンピューターの前まで行かなくても、リモートから起動環境の操作を行うことができます。

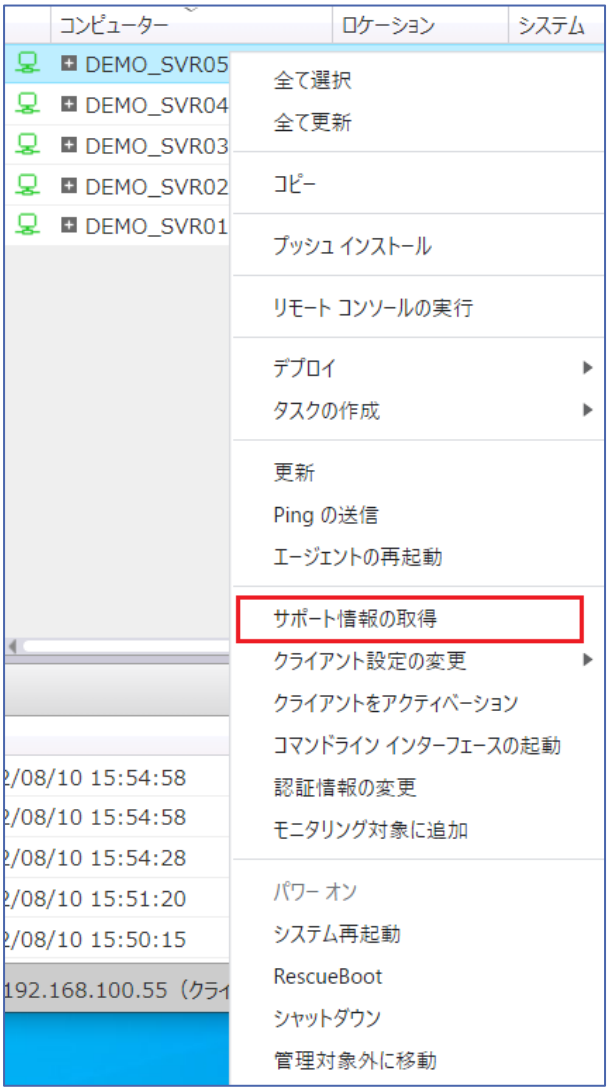


7. APPENDIX

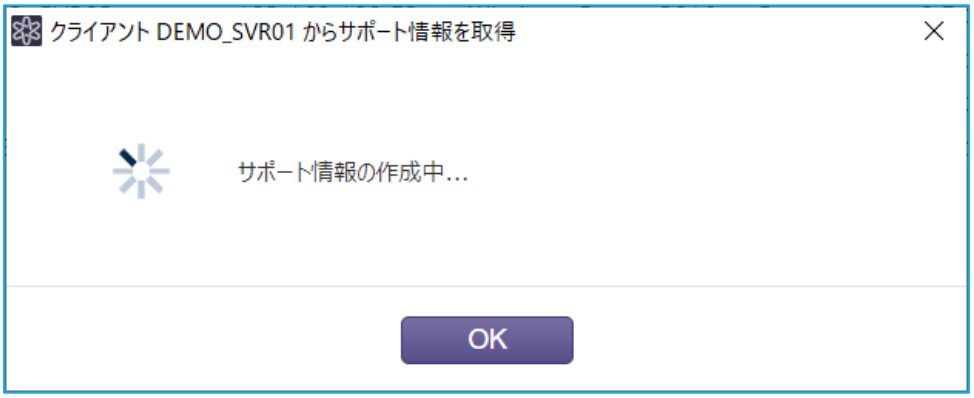
サポート情報の取得方法

アクティファイにサポートを依頼する時に必要なクライアントの情報が必要になります。エージェントのみをインストールした管理対象コンピューターでは、ActiveVisor から生成するのが便利です。サポート情報ファイルは ActiveVisor のローカルフォルダーに ZIP ファイルとして生成されます。

1. ActiveVisor のクライアントリストから管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［サポート情報の取得］をクリックします。

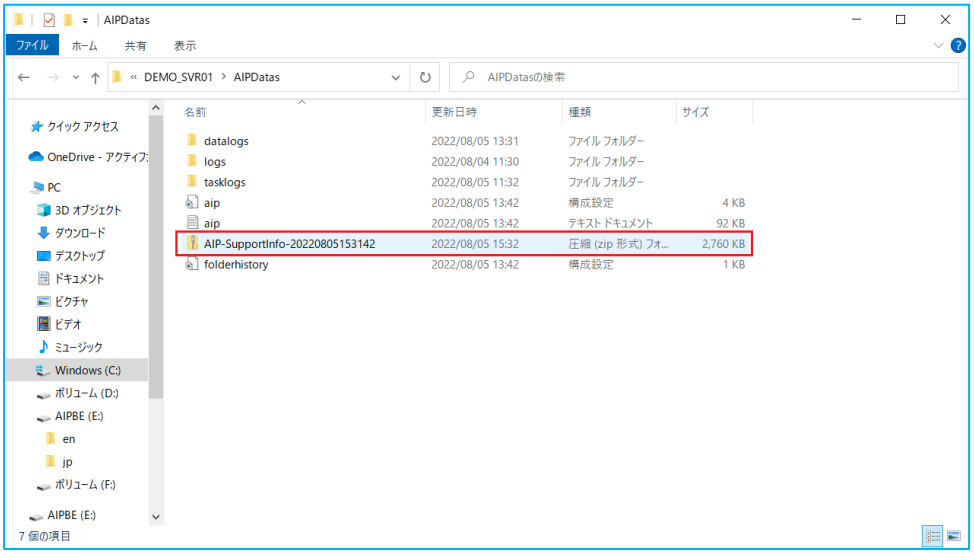


2. サポート情報生成中のダイアログが表示されます。



3. 生成が完了すると、サポート情報ファイルを保存したパスが表示されます。

4. 表示された保存パスの場所にサポート情報ファイルが作成されますので、サポート依頼時に添付してください。



ActiveVisor 参考情報

アクティファイの Web サイト

製品情報の他、各種資料やサポート情報、アップデートなど、総合的にご案内しています。

https://www.actiphy.com

ActiveImage Protector の FAQ

サポート情報のデータベースです。

https://jpkb.actiphy.com/

ActiveVisor に関するお問い合わせ先：

株式会社 アクティファイ

営業本部

E-mail:sales@actiphy.com

TEL: 03-5256-0877

FAX: 03-5256-0878

© 2022 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティファイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。